

令和7年度

# 研修集録

第2号

秋田県立鹿角高等学校

# 目 次

## 【年次研修】

### 初任者研修

	理科	和田 宏哉 …	1
	保健体育科	佐藤 太一 …	4

### 実践的指導力習得研修

2年目

	英語科	小坂 晋也 …	6
	英語科	畠山 直央 …	9

### 実践的指導力向上研修

養護教諭8年目

	養護教諭	田中 詩織 …	14
--	------	---------	----

### 中堅教諭等資質向上研修

	地歴公民科	石木田 倫子 …	16
--	-------	----------	----

## 【前期校内授業研修会】

	授業相互参観・要項	…	24
	各教科 協議会記録	…	26～36

## 【後期校内授業研修会】

	理科		
	授業者	和田 宏哉 …	37
	協議会記録	細川 蓮 …	39
	保健体育		
	授業者	佐藤 太一 …	41
	協議会記録	月居 克夫 …	45
	芸術(音楽)		
	授業者	柴田 拓朗 …	48
	協議会記録	小松 翔梧 …	50

## 【年次研修】

# 初任者研修を振り返って

理 科 和 田 宏 哉

## 1. はじめに

これまで講師として勤務した経験を通して、授業づくりや生徒対応の難しさ、教育現場で果たす教員の役割の大きさを実感してきた。その経験を踏まえて臨んだ初任者研修では、指導主事の方々や他校の先生方から多くの助言をいただき、自身の実践を理論的に振り返る機会を数多く得ることができた。特に、生徒一人一人の背景や思いに目を向けた指導の重要性について理解を深めることができた点は大きな学びであった。人口減少や地域社会の変化が進む中、秋田県の未来を担う生徒たちに、学ぶ意欲と地域社会への誇りを育む教育の重要性を強く感じている。来年度以降は本研修で得た学びを生かし、生徒の可能性を引き出す指導を通して、秋田県の教育と地域の発展に貢献しながら更に研鑽を積んでいきたい。

## 2. 校内研修

### (1) 一般研修

佐藤校長先生、青山教頭先生、石井志徳教頭先生、佐々木事務長、研修・図書主任の内川先生、指導担当の石井智子先生、各分掌主任の先生方からお忙しい中、丁寧にご指導いただいた。日々の授業や生徒との直接的な関わりだけでなく、学校という組織での初任者の在り方や学校としての指導の方向性、教育目標などに加え、教育公務員としての自覚をもつことの重要性を再認識することができた。さらに、鹿角郡市唯一の高等学校で統合2年目となった本校に対し、様々な方面からの期待も大きくなってきていることから、保護者や地域住民との連携を大切に、生徒の郷土愛の醸成から地域の活性化にも繋げていきたい。

### (2) 教科研修

教科指導員の佐藤政弘先生を始めとする理科の先生方、他教科の先生方にも授業を参観していただいたことで、多角的・教科横断的な見方・考え方を広げることができた。これまでの教員人生でも「ICTの効果的な活用」や「個別最適な学習」については力を入れてきたが、研修を重ねることで視野が狭まっていたことに気付き、日々の授業や研究授業など積極的に参観し助言を乞うことを次年度以降も継続していきたい。

## 3. 校外研修

### (1) 総合教育センター主催の研修

期	月 日	研 修 内 容
I	4/23	・教育公務員の服務 ・学校組織の一員として①—組織原則の理解— ・授業づくりの基本 ・授業で取り組む情報教育①
II	5/14	・学習指導要領の要点 ・学習指導要領に基づく教科指導 ・単元(題材)構想の具体

III	6 / 11	・学習指導案作成の基本 ・教科における学習評価の基本 ・いじめ等の問題行動や不登校の理解
IV	7 / 31	・安全教育と応急手当 ・教員のメンタルヘルス ・他者と共によりよく生きる力を育てる道徳教育 ・授業で取り組む情報教育②
V	8 / 6	・キャリア教育の充実 ・いじめや不登校への具体的な対応 ・総合的な探究の時間の充実
VI	8 / 27	・中学校との関連を踏まえた授業づくり
VII	9 / 17	・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり①
VIII	10 / 20	・授業実践研修
IX	10 / 29	・特別な支援を要する児童生徒の理解と支援①② ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり②
X	1 / 6	・学校における教育相談 ・特別活動の理解とホームルーム経営 ・学校組織の一員として②—目標管理—

〈感想〉

これまでの経験から実践的に理解していたことの裏付けとなる知識を得る機会や、教科指導や生活指導をさらに効果的にする考え方や工夫を知る機会があり、非常に有意義であった。特に、教科指導における授業づくりでの本時の目標の設定や探究型授業の徹底について、中学校採用の新任者と共に研修したことは新鮮であり衝撃的でもあった。これまでの経験を活かしつつ、様々な授業の在り方を吸収して生徒の興味・関心を引き出すことのできる授業展開を実践していきたい。

(2) 高校教育課主催の研修

月 日	研 修 内 容	開 催 場 所
4 / 1	教職基礎	秋田地方総合庁舎
5 / 14	初任者研修講座Ⅱ (総合教育センターと合同)	総合教育センター
6 / 18	特別支援学校訪問	秋田県立比内支援学校かづの校
7 / 24, 25	A P 研修	県立岩城少年自然の家
10 / 8	生徒理解	秋田県立秋田明德館高等学校

〈感想〉

学校現場を離れて様々なアクティビティを体験しながらのA P研修では、明確な意図をもって活動させること、適度な責任を与えること、気付きを促す声掛けをすることなど、集団内での人間関係形成において教師がファシリテーターとして見守ることの重要性を学ぶことができた。また、特別支援学校や定時制・通信制課程の高等学校へ初めて訪問し、生徒一人一人の実態や背景に合わせた支援や配慮の実例を間近で見ることができ、予測困難な

社会を生きる生徒のためにも意識して取り入れていきたい。

#### 4. おわりに

生徒たちがこれから予測困難な時代を生きていくことと同様に、私も様々な勤務校で様々な生徒と出会っていくことになる。どの学校でどの生徒と関わることになったとしても、この初任者研修で学んだことを基盤とし研鑽を積み重ねることで、教員としても人間としても成長し続けていきたい。そして生徒がより良い人生を送ることのできるよう、生徒と全力で向き合い寄り添うことを大切に、学校現場から未来を作っていくことのできる教員でありたい。

# 初任者研修を振り返って

保健体育科 佐藤 太一

## 1. はじめに

講師として2年前に採用され、県内の高校で勤務をしてきた。講師の時期も積極的に研修の機会を持つように心がけてきたが、今年度採用となり、より充実した気持ちで研修に参加することができた。研修を受けるごとに、教育に携わる者としての使命を再認識し、秋田県、ひいては日本の未来を、教育を通して作っていく責任を痛感している。貴重な経験をさせて頂いた記録をここに残し、これからも教員としての資質をさらに高めていくための礎としたい。

## 2. 校内研修

### (1) 一般研修

佐藤校長先生、青山教頭先生、石井教頭先生、佐々木事務長、研修主任の内川先生、指導担当の石井智子先生、各分掌主任の先生方から、多忙な中でお時間を割いていただき、丁寧なご指導を賜った。教員の職務は授業に留まらず、学習指導要領や教育課程を深く理解し、生徒一人ひとりに寄り添った指導を模索し続けることが不可欠である。加えて、保護者や地域との連携、外部への説明責任を果たしつつ、生徒が自己理解を深め、自身の人生に方向性を見出せるよう支援していきたい。

### (2) 教科研修

指導担当の石井智子先生を始めとする保健体育科の先生方、さらには他教科の先生方にも授業を参観して頂いたことで、自身の授業改善に向けた視点を広げることができた。今年度の研修を通じ、「資質・能力を伸ばすための授業内容の精選」と「学習目標・内容・活動の整合性」が喫緊の課題であると実感した。今後は、単に知識や技術を伝達するだけでなく、生徒の興味・関心を引き出し、深い学びへと繋げるための教材研究や工夫に努めたい。

## 3. 校外研修

### (1) 総合教育センター主催の研修

期	日にち	研修内容
I	4/23	・教育公務員の含む ・学校組織の一員として①-組織原則の理解- ・授業づくりの基本 ・授業で取り組む情報教育
II	5/14	・学習指導要領の要点 ・学習指導要領に基づく教科指導 ・単元(題材)構想の具体
III	6/11	・学習指導案作成の基本 ・教科における学習評価の基本 ・いじめ等の問題行動や不登校の理解
IV	7/31	・安全教育と応急手当 ・教員のメンタルヘルス ・他者と共によりよく生きる力を育てる道徳教育 ・授業で取り組む情報教育②

V	8/6	・キャリア教育の充実 ・いじめや不登校への具体的な対応 ・総合的な探究の時間の充実
VI	8/27	・中学校との関連を踏まえた授業づくり
VII	9/17	・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり①
VIII	10/20	・授業実践研修
IX	10/29	・特別な支援を要する児童生徒の理解と支援① ・特別な支援を要する児童生徒の理解と支援② ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり②
X	1/6	・学校における教育相談 ・特別活動の理解とホームルーム経営 ・学校組織の一員として②-目標管理-

### 【感想】

計 10 期の研修を通して、評価の妥当性や ICT の有効活用など、現代の教育課題について多角的に学ぶことができた。特に、講師経験の中で感覚的に行っていた指導に対し、理論的な裏付けを得られたことは大きな収穫であった。今後は、生徒の学習履歴や資質・能力を多面的に捉え、「主体的・対話的で深い学び」を体育の授業の中でも体現できるよう努めたい。

### (2) 高校教育課主催の研修

日にち	研修内容	開催場所
4/1	教職基礎 I	秋田地方総合庁舎
5/14	初任者研修講座 II (総合教育センターと合同)	総合教育センター
6/18	特別支援学校訪問	秋田県立比内支援学校かづの校
7/24~25	AP 研修 (宿泊)	岩城少年自然の家
10/8	生徒理解	秋田明德館高校

### 【感想】

特別支援学校の訪問や秋田明德館高校での研修は、「生徒一人ひとりの背景に寄り添う指導」の重要性を再認識する機会となった。環境の構造化や視覚情報の整理など、ユニバーサルデザインの視点は、体育の現場における安全管理や運動が苦手な生徒への配慮にも直結するものである。組織として指導の足並みを揃え、全校生徒にとって安心感のある環境づくりに貢献していきたい。

## 4. おわりに

この 1 年間の研修は、教員としての基盤を再構築する貴重な時間となった。変化の激しい時代において、生徒を導くためには、私自身が常に学び続ける姿勢、自己研鑽の姿勢を持ち続けることが不可欠である。今後は、本研修で得た知見を日々の教材研究や生徒理解に活かし、保健体育科の教員として、生徒の心身の健やかな成長を支えるために職務を全うしたい。

## 実践的指導力習得研修2年目（採用3年目）を振り返って

小坂 晋也

### 1. はじめに

秋田県公立高校の教諭に採用され、早3年を経とうとしている。本研修の目的にある「実践的指導力や使命感を養うとともに、個々の教員が豊かな識見を身に付け、主体的に自らの力量を高めさせること」を意識しながら、1年間を通して研修を行った。

### 2. 一般研修 ～教科指導について～

教科指導に関わる研修として、4月に教務主任より「観点別評価の方法の研究」について研修をしていただいた。昨年度からすべての学年が新学習指導要領による教育課程が実施されている。昨年度からの軽全店を踏まえながら、三つの観点による評価の方法や、成績を実際に算出する上での注意点等を改めて確認することができた。

9月には発信力強化研究開発プロジェクトの一環として、3年A組で「論理・表現Ⅲ」の研究授業を実施した。日本の将来における再生可能エネルギーの是非について、GELPによるAIの活用と以前研修で学んだディベートトレーニングを組み合わせて、生徒の発信力の向上をねらいとした。授業デザインやAIの活用と教員の役割の自覚について、多くの先生方から指導助言をいただいた。この研究会で学び得たことを踏まえて、授業内だけではなく、全般的に生徒の学びに向かう主体性を育てていきたいと改めて感じた。

### 3. 一般研修 ～生徒指導について～

3年生のクラス運営と個に応じた生徒との面談方法について、学年主任と協議を重ねて、実際の指導に生かすことができた。今年度は初めての3年担任であり、進路指導や多様化する悩みについてどのように担任として接すればよいか学んだ。4月には、年度当初の動きや1年間を通した学年・学級運営の実際について学んだ。また、7月には生徒の問題行動に対処すべく、学年主任をはじめ多くの先生方の指導助言のもと、生徒との面談を通して、問題解決に向けて取り組むことができた。

### 4. 一般研修 ～各分掌・マネジメント能力について～

各分掌の業務やマネジメント能力に関わる内容についても研鑽を重ねることができた。4月には、本校のランドデザインについて、年度当初の職員会議で再確認した。3校統合を経て鹿角高校が目指すものについて自分がどのような役割を果たせば1年を通して考え続けることができた。自動採点システムや校内ネットワーク、ICTの効果的な活用についても、日常の業務を進めながら取り組むことができた。自動採点システムの活用を考査に限定せず、小テストや評価問題などでも活用することにより、システムの活用を前提とした問題作成を適宜行うことができた。また、授業アンケートを効果的に活用することで授業改善にどのように繋げていくのか、今後の授業を構築する上で考えなければならない。生徒の声を踏まえて、自分の授業における強みをさらに伸ばし、課題を少なくすることが必要だと学んだ。

### 5. 終わりに

採用3年目になり、学級経営だけでなく、分掌に関するものなどさまざまな業務を任されることが多くなった。また、3年担任という業務を通して、自分の見えていなかったことを再認識した。今年度は、そのような日々の業務を通して、多くの先生方からの指導助言をいただき、改めて教員として必要な力を身に付けることができた。今後も、現状に甘んじることなく、生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを考え、その実現に向けて、教科指導や生徒指導等様々なアプローチで取り組んでいきたい。

## 英語科「論理・表現Ⅲ」学習指導案

実施日時：令和7年9月2日（火）5校時

対 象：鹿角高等学校 普通科 3年A組（26名）

授 業 者：小坂 晋也

教 科 書：MY WAY Logic and ExpressionⅢ（三省堂）

### 1 単元名 Lesson 7 Making a Speech

### 2 単元の目標

エネルギー資源の問題について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに聞き手に分かりやすく話して伝えることができる。

### 3 単元と関連する CAN-DO 形式での学習到達目標

社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。

【GRADE 6 話すこと [発表]】

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー事情に関する情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現等を理解している。</li> <li>エネルギー事情についての情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。</li> </ul>	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、エネルギー事情についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、エネルギー事情についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。

### 5 単元観

本単元は、エネルギー事情に関する説明文を聞いたり読んだりすることで、問題解決のために自分ができる取組について考え、環境問題について理解を深めていく内容となっている。扱われている言語材料は関係詞である。ペアやグループで伝え合う活動を通して新たな情報やものの考え方を得たり整理したりすることで、日本の将来のエネルギー源の解決策について多面的・多角的に考える機会とする。

### 6 生徒観

日頃から帯活動で「話すこと [やり取り]」を伴う言語活動を取り入れていることもあり、簡単な語句や表現を用いて積極的にペア活動に取り組む生徒が多い。一方で、意見を述べる際に理由を述べることはできているものの、相手がわかりやすく理解できるように例や説明を加えることについては依然課題が見られるため、指導の工夫が必要である。

### 7 指導観

発表に向けた支援として、エネルギー事情に関する動画や記事を使用し、内容に親しみをもたせたい。また、ICT教材を使用し、CEFRA2～B1 レベルで200語程度の文章を繰り返し読み解いていくことで、読解力の育成にもつなげていきたい。また、意見交換や、発言・発表に対する質問・助言の際に使用する定型表現を提示することで発話を促し、扱われている題材について多面的・多角的に考える一助とする。

### 8 単元の指導と評価の計画（総時数：6時間）

時間	主な言語活動等	一考に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時行おう。
1	Introduction エネルギー事情について学んだことをペアやグループで共有する。（帯活動/内容理解/音読）	
2	Part 1 デンマークのエネルギー事情について聞いたことをペアやグループで共有する。（リスニング/表現活動）	
3	Part 2 日本の将来のエネルギー源について自分の意見を述べる（帯活動/ディスカッション）	
4	Part 3 情報や考えを伝えるために必要な語彙や表現を学ぶ。（音読/問題演習/情報収集/スピーキング）	
5 本時	Part 4 再生可能エネルギーについての自分の考えを述べる。（プレゼンテーション・ペアでの意見交換）	

時間	主な言語活動等	知	思	態
6	まとめ 前時の意見交換をグループや全体で共有し、自分の意見に理由や例、説明を加え、発表する。授業の後にスピーチ内容を GELP で提出する。(スピーチ)		○	○
後日	Lesson7 パフォーマンステスト	○	○	○

評価方法：活動の観察／振り返りの記録（単元を通して適宜行う）／発話の記録／パフォーマンステスト（後日）

※この単元では、一斉に記録に残す評価は第6時と後日のパフォーマンステストの際に行う。

※帯活動例：身近な話題におけるスモールトーク／ディベートトレーニング

## 9 本時の学習（本時5／6）

### (1) 目標

日本の将来のエネルギー事情について、情報を整理しながら、例や説明を加えて伝え合うことができる。

### (2) 本時の展開（50分）

過程	学習活動	教師の支援及び留意点
導入 10分	<p>○Warm up</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Small Talk &amp; QA</li> </ul> <p>○その後板書を用いて、再生可能エネルギーについての情報を全体で共有する。</p>	<p>○スモールトークはテーマに関連するトピックを設定し、本時の活動につなげられるようにする。事前に関連する課題を GELP で配信する。</p> <p>○写真を複数枚提示し、生徒の活動の支援を行う。</p> <p>○再生可能エネルギーについて情報を整理、共有できるように、4つの視点を電子黒板で提示する。(経済、環境、社会、技術)</p>
展開 32分	<p>○本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <b>What do you think of the idea that Japan should use only renewable energy in the future?</b> </div> <p>○GELP でテーマに関する文章を読み、問いに答える。</p> <p>○2人ペア+ジャッジ1名でのスピーキング活動を行う。</p> <p>Round1 3分準備→1分発表(交互) →ジャッジ</p> <p>Round2 2分準備→1分発表(交互) →ジャッジ</p> <p>Round3 1分準備→1分発表(交互) →ジャッジ</p> <p>*ジャッジはRound ごとに移動し、ジャッジを行う。</p> <p>*最終ラウンド終了後、ジャッジもトピックに関して自分の意見の1分発表を行う。</p>	<p>○机間巡視を行い、つまづいている生徒に個別で支援を行う。</p> <p>○内容や表現について、個別に支援したり、全体で共有したりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔評価〕</p> <p>日本の将来のエネルギー事情について、情報を整理しながら、分かりやすく伝え合っている／伝え合おうとしている。(活動の観察)</p> <p>【思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度】</p> </div>
まとめ 8分	<p>○自分の発表を GELP で提出し、振り返りの観点に基づいて自己評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容面（発表に2つの理由と例や根拠を含んでいるか。）</li> <li>・ 表現面（主語と動詞の使い方が適切か。）</li> <li>・ 態度面（相手によりよく伝わるように伝え方を工夫しているか。）</li> </ul> <p>○次時の見通しをもつ。</p>	<p>○必要に応じて助言をする。</p> <p>○振り返りの際は提出した GELP の添削結果を各自で活用させる。</p> <p>○個々に事前準備や練習ができるように、次時の活動について説明する。</p>

# 実践的指導力習得研修（２年目）を振り返って

英語科 畠山 直央

## 1. はじめに

本来であれば本研修は前年度に終わるべきだったが、感染症により一部の研修に参加できなかったため、再度受講することとなった。今年度、英語科では複数の事業で拠点校やモデル校となり、研究授業や授業研究会、そして研究内容の発表の場に多く恵まれた。生徒指導や進路指導、教科指導にさらに自信をもって取り組むことができるきっかけとなった本研修の知見をまとめ、来年度以降の一層の実践につなげることとする。

## 2. 校内研修

### ・一般研修

1学年の学級担任を初めて務めるにあたり、どのような視点で生徒に接するべきかについて多く学ぶことができた。特に、新しい環境で不安を抱く生徒たちが新しい集団を築くうえで、生徒や保護者との連絡を密にすることや、生徒の細かい変化に気づくことを重視しながら、見通しをもった指導を行うことに注力すべきだと気づかされた。

また、学年全体に等しく指導を行う際には、職員間の足並みを揃えることも肝要であった。日々感じたことを早期に共有し、チームとしてぶれない指導を行うことで、生徒が不安に感じたり困惑したりすることを減少させることに寄与すると考える。生徒のなかには高校卒業と同時に社会に出るものもいる。そのような生徒が自身の性質を理解し、自立をする際にどのようにその性質に対処するかをこの高校生活のなかで理解・実践できるようになるためには、関係職員全員による同質の指導がされなければならない。

加えて、ICT機器の活用が加速し、高校入試にデジタル採点が導入されようとするなかで、それらについての見識を広げることができたことも大きな収穫であった。特にデジタル採点に関しては、入試業務の大きな転換点となる。導入初年度ということもあり、改善すべき点も複数確認されるだろう。職員間での情報共有をこれまで以上に行い、公平公正に業務を遂行したい。

令和7年度発信力強化研究開発プロジェクトに加えて、令和7年度AIの活用による英語教育強化事業に参加したことで、ディベート的要素を取り入れた言語活動と、AIアプリ教材「GELP（ジェルピー）」の活用の両方に取り組んだ。教科等の指導については、令和7年11月18日に行われた授業研究会と学習指導案事前検討会において、指導助言をいただいた若有保彦准教授、草階健樹先生、深沢志保先生、大倉昌充先生をはじめとする多数の先生方から質問やご意見を頂戴することで、洞察を深めることができた。

私的な反省点として現在まで残っているものが、AIによる修正を検討する時間が不足しているということである。授業内では、ペアワークを2回行ったあとでGELPの録音・採点機能を使用し、添削された内容をワークシートに記載させた。その後すぐにペアワークを再開したため、

GELPがなぜそのように直したのかを解釈する時間が不足することとなった。個に応じた指導のエッセンスとも言えるこの指摘に、生徒一人ひとりをどう取り組ませるかが今後の課題である。

また、AIの有無にかかわらず、生徒の興味・関心を引く授業づくりや生徒の資質・能力を引き出す授業づくりをする技量が今後も教員にとって必須であることに変わりはない。生徒の価値観を揺さぶるような体験を生むのは、生徒の実情を知る教員の役目である。Rojas, Rong & Bloomfield (2025)によれば、AIの授業内での活用は学習意欲の向上の自信の創出に主な効果があるという。今後は教員とAIが両輪となって授業と自宅学習をさらに有機的に結びつけ、指導を分担していくと予想される。上記の添削内容の検証と、パフォーマンステスト（特にスピーキングテスト）でのAIの利活用の2点について、次年度も一層研究を重ねたい。

### 3. おわりに

本県採用から4年が過ぎようとしているが、毎年新しい生徒に指導し、学校経営・分掌業務に携わるたびに、自身の知識不足や自己研鑽のさらなる必要性を痛感している。毎日のようにアップデートや機能の追加が行われる生成AIはもちろんのこと、生徒を取り巻く人間関係や悩み、自己肯定感も日々変化しているのだろう。我々教員ができることは、研修などを通して確かな知識を身につけ、それを基に実際の生徒の助けとなる最善の行動をとることである。また、得た知識を更新しつつ、県民の期待に応えられるような時代に即した行動をとることである。これからも学校運営がさらに円滑にされ、生徒たちが社会の一員として責任のある言動ができるように、私自身の資質・能力を高めていきたい。

英語科「英語コミュニケーションⅠ」学習指導案

実施日時：令和7年11月18日（火）5校時

対 象：鹿角高等学校 普通科 1年B組（30名）

授 業 者：畠山 直央／ALT：Jonathan Sullins

教 科 書：MY WAY English Communication I（三省堂）

1 単元名 Lesson 4 Messages from Winnie-the-Pooh

2 単元の目標

- (1) 『クマのプーさん』に込められたメッセージについて、理解して考えを深めることができる。
- (2) 『人魚姫』の終わり方について、意見を交換してまとめ、発表することができる。
- (3) 「現在完了」「現在完了進行形」「過去完了」の表現を理解し、活用することができる。

3 単元と関連する CAN-DO 形式での学習到達目標

日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。

【高1・話すこと [やり取り]】

日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。【高1・書くこと】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在完了形、現在完了進行形、過去完了形に関する事項を理解している。</li> <li>● 考えや意見をたずねる表現の意味や働きを理解している。</li> <li>● 詳細な情報とともに、グループで話し合った内容を基に発表する技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 『人魚姫』の終わり方について、グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 『人魚姫』の終わり方について、グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、主体的に情報や考えを発表して伝えようとしている。</li> </ul>

5 単元観

本単元では、『クマのプーさん』を何度も読んでいる高校生が成長とともに新たな視点で物語を捉えたことを発表している。文中では継続や経験を表すために現在完了が、過去との対比を表すために過去完了が用いられている。これを読む生徒にも、自身の経験や他者との対話によって考えが変化することがあってもよいということを認識してもらいたい。

6 生徒観

帯活動や普段のペアワークにより、自身が活用できる範囲での英語で話すことには慣れてきている。ディベートなどのさらに発展的なやり取りの準備段階として、話題を発展させる力や、質問などで相手を支援する力、構成を意識して伝える力を伸ばしていきたい。

7 指導観

日常的な話題から社会的なものに一步踏み込んだ題材に取り組みさせることで、負荷のやや高い活動を目指す。ICT機器の活用やユニバーサルデザインに配慮した授業を通じて、生徒が授業に参加しやすくなりたい。授業と自宅学習の連携や、ペアワークで得られたことを記録・活用できる授業づくりで知識や技能の確実な定着ができればと考える。

8 単元の指導計画（総時数：11時間）

時間	主な言語活動等	知	思	態
1	Introduction 子どもの頃に好きだったことをペアで共有する。 Part 1 『Winnie-the-Pooh』に関する本文の概要を捉える。(内容理解)	一斉に記録に残す評価は行わない。 ただし、ねらいに即して生徒の活動 の状況を見届けて指導に生かすこと		
2	Part 1 『Winnie-the-Pooh』に関する本文の詳細を捉える。(内容理解/音読)			
3	Part 1 好きな本の種類について話して伝える。(表現活動)			
4	Part 2 作中のエピソードに関する本文の概要を捉える。(内容理解)			
5	Part 2 作中のエピソードに関する本文の詳細を捉える。(内容理解/音読)			
6	Part 2 好きな本のエピソードについて話して伝える。(表現活動)			
7	Part 3 『The House of Pooh Corner』に関する本文の概要を捉える。(内容理解)			
8	Part 3 『The House of Pooh Corner』に関する本文の詳細を捉える。(内容理解/音読)			
9	Part 3 好きな本が自身に与えた影響について話して伝える。(表現活動)			
10	Part 3 『人魚姫』の2通りの結末についてグループで話し合い、ALTやクラスメイトと意見交換をする。			
11	まとめ 前時の意見交換を基にペアワークを行い、意見や考えを論理的に伝え合う。(やり取り/英作文)			
後日	パフォーマンステスト			
評価方法：活動の観察/振り返りの記録(単元を通じて適宜行う)/スピーキング課題(授業後)/パフォーマンステスト(後日)				

9 本時の学習(本時11/11)

(1) 目標

『人魚姫』の適切な終わり方について、自分の意見を説得力をもって伝えることができる。

(2) 本時の展開(50分)

過程	学習活動	教師の支援及び留意点
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>Warm up Taboo gameを前時と同じグループで行う。 JTEが物語の題名を1つ提示し、生徒1人は班員がその題名を答えるまで英語で説明する。これを2度行う。</li> <li>ALTが、取り組むべきConundrum(難問)の内容を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不自然・不完全な英語を許容できる雰囲気作りを行う。(JTE・ALT)</li> <li>言い換えや質問で生徒の理解を確認しながら行う。(ALT)</li> </ul>
展開 38分	<ul style="list-style-type: none"> <li>JTEが本時の学習課題を確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">             Which ending will you choose for <i>The Little Mermaid</i>? And why?           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアを作り、英語で意見交換・質疑応答をして2分間話し続ける。ペアを変えながらこれを2回行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2分間会話が続くように、聞く側もシートを活用しながら、あいづちや質問をするように伝える。生徒たちの意見に応じて、“Which ending is good for children?”などと問いかける。(JTE)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語学習アプリ「GELP」を使用して、自分の発言を録音・添削する。新しく得た知識はメモをする。</li> <li>ペアを作り、英語で意見交換・質疑応答をして2分間話し続ける。ペアを変えながらこれを2回行う。</li> <li>前時と同じグループを作り、2グループの代表者に発表をさせる。教員とALTからの質問を聞き、それに回答させる。</li> <li>ペアワークを基に、今の自身の意見をGELPで5分間入力させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>録音をしやすい雰囲気を作るために、スピーカーで環境音を流す。(JTE) 机間巡視をして、表現に悩む生徒がいれば助言を行う。(JTE・ALT)</li> <li>生徒たちの意見に応じて、“Which love is deeper?” や “Which message is stronger?” などと問いかける。(JTE)</li> <li>発表した生徒の意見には好意的なフィードバックを行う。(JTE・ALT) 新たな気づきを与えられるような質問をすることを心がける。(JTE・ALT)</li> <li>机間巡視を行い、操作で困る生徒がいれば支援する。(JTE・ALT)</li> </ul>
ま と め 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の生徒の活動について好意的なフィードバックを行う。(JTE・ALT) GELPを使って自宅でも再度録音・添削をするように声かけをする。(JTE)</li> </ul>

# 実践的指導力向上研修講座（養護教諭 8 年目）を振り返って

養護教諭 田中 詩織

## 1. はじめに

この研修の目標は「自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図る」と定められている。

## 2. I 期について

### (1) 日程と内容

令和 7 年 6 月 13 日（金）

9 : 30 受付

10 : 00 〈開講行事・オリエンテーション〉挨拶

10 : 15 〈講義・演習〉いじめや不登校の未然防止とその対応

12 : 00 昼食・休憩

13 : 00 〈講義・演習〉学校組織の一員として—自己理解に基づく目標設定—

14 : 35 〈講義・演習〉コーチングの基礎

16 : 05 リフレクション

### (2) 講義内容と考察、感想等

#### ①いじめや不登校の未然防止とその対応

養護教諭が最初にいじめの相談を受けることも多い。日頃からの相談しやすい環境づくりの重要性を改めて感じた。また、校内で連携を取り、いじめが解消したと思われても、継続した見守りと必要に応じた支援を確実にしなければならないと学んだ。

不登校対応については、「6つの力の多角的な分析」を意識したいと思った。実際にアセスメントシートに書き出す作業をしたことで、より生徒の気持ちを考えることができると感じた。さらに対応策など新たに見えてくるものがあると感じたので、これから実践していきたい。

#### ②学校組織の一員として—自己理解に基づく目標設定—

資質・力量マップを作成したことで、現在の自分の強みや弱みを知ることができた。そして、それをグループで共有したことで、自分だけが抱えている課題ではないのだと気付くことができた。今回、設定した目標を達成できるように、養護教諭としての自分を高め、学校組織の一員として貢献したい。

#### ③コーチングの基礎

コーチングについては以前別の研修でも学んだことがあった。その後は、ただ悩みに寄り添うだけではなく、「これからどうしていくか」という視点を持ち、少しでも前向きになれるような声かけを意識して生徒へ健康相談活動を行っていた。しかし、最近は生徒本人に「どうしたらいいと思うか」を考えさせるような「質問」が足りていなかったと気付くことができたので、生徒の自立を促すためにも、これから意識して行っていきたい。

### 3. II期について

#### (1) 日程と内容

令和7年9月12日(金)

- 9:40 入室 (zoomの接続)
- 10:00 諸連絡
- 10:05 <講義> 眠りの大切さ
- 12:00 昼食・休憩
- 13:00 <講義> 性犯罪捜査と犯罪被害に遭った子どもへの対応
- 14:35 <講義> 養護教諭が行う健康相談
- 16:15 研修の振り返り

#### (2) 講義内容と考察、感想等

##### ① 眠りの大切さ

「寝不足だと嫌なことが強く記憶に残る」という研究結果に驚いた。保健室に来室した生徒に睡眠の状況を聞いているが、スマートフォンを使用して夜更かしをしているという生徒も見受けられる。嫌なことがあるから眠れない場合もあると思うが、眠りの大切さについて個別の保健指導や保健日より情報を発信していきたい。また、福岡県の高校で「昼休みに15分間の昼寝を導入したところ、センター試験の成績が向上し、保健室利用者数も減少した」という研究結果が非常に興味深かった。

##### ② 性犯罪捜査と犯罪被害に遭った子どもへの対応

犯罪被害に関する初期聴取時に、校内の職員であっても、何度も話を聞くことは、生徒の心身への負担・記憶の書き換えに繋がるので、行ってはいけないと分かった。警察へ引き継ぐ際は「誰が何をしたか」が分かれば十分なので、イエスノーで答えさせるような質問や誘導はせず、生徒が話した言葉通りに記録することが大切だと学んだ。実際にそのような相談があった際は、今回の内容を思い出し、落ち着いて対応したい。

##### ③ 養護教諭が行う健康相談

養護教諭は生徒の心身の健康課題を発見しやすい立場であり、地域の関係機関とのコーディネーターとしての役割も担っている。事例検討会はまだ行ったことがないが、実際の進め方などを具体的に知ることができた。日々の来室時の対応についても、相談の時間は50分を上限とし、そのことを初めに伝えて共通認識を図る、すぐに対応ができない場合は日時を改めて設定するなど、来室者が多い時でも見通しを持たせながらスムーズな対応を心がけたい。

### 4. 研修全体を振り返って

1人職だからこそ、こういった研修の場で自身の日頃の職務を振り返り、専門的な知識を深めることは非常に大切だと感じた。校内での連携のみならず、養護教諭同士の繋がりを持って今後も自己研鑽に励みたい。また、日々、多くの生徒と関わる中で、記録を残しておくことの重要性が感じられた研修でもあった。いじめ、不登校、虐待など様々な要因が考えられるため、きちんと記録を残しながら丁寧な対応、アセスメントを心がけたい。

# 中堅教諭等資質向上研修を振り返って

地歴公民科 石木田 倫子

## 1 はじめに

「中堅教諭等資質向上研修」は教育公務員特例法第24条において法制化された研修であり、「その教育活動その他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図ること」を目的としている。

## 2 校内研修

校内研修では、年間研修項目例を参考に自分が力を入れて取り組みたい内容を盛り込み、研修計画を立てた。特に「教科指導の際に、学校図書館の活用にも努めること」と「キャリア教育の企画・運営力を向上させること」を大きな目標とし、校長先生、教頭先生をはじめ、分掌主任の先生方からご指導いただいた。教科に関する研修では、授業研修に向けた指導案の作成を通して自分の授業を見つめ直したり、校内や校外も含め多くの先生方の授業を参観させていただいたり、大変学びの多い機会となった。世界史探究の授業において、学校図書館を活用することができたが、インターネットで何でも調べられる時代の中で、本を活用するということが非常に難しく、本を活用する目的や効果的な学校図書館の活用方法についてはさらに研究が必要だと感じた。教科以外に関する研修では、自分が知らない学年主任や分掌主任の仕事内容を知ることができた。校外研修でも取り上げられているキャリア教育については、授業等でも意識しながら取り組むことができたと思う。

## 3 校外研修

秋田県総合教育センターで行われた研修講座を受講し、教育公務員について再確認するとともに、中堅教諭であるという自覚と立場を認識した。また、各校の課題や抱える生徒についての悩みなど実例をもとに他校の先生方と演習を通して考えることができた。「授業研修」では、他校で授業をするという大変貴重な機会を与えていただいた。また、自ら研修先を決定して行う体験研修である「選択研修」では、小坂町康楽館で研修させていただき、小坂鉦山と康楽館の素晴らしさや歴史を知ることの面白さを実感することができた。校外研修の詳細は以下のとおりである。

### <秋田県総合教育センターの研修講座>

#### I期(令和7年6月24日) ※オンライン研修

講義・演習	教育公務員の服務
講義・演習	学校の危機管理
講義	質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略

## Ⅱ期（令和7年8月5日）

講義・協議・演習 高い専門性に基づく教科指導の充実と推進

## Ⅲ期（令和7年9月18日）

講義・協議・演習 人間としての在り方生き方を考える道徳教育

講義 いじめの理解と対応

講義・協議 気になる生徒の事例を通じた具体的対応の理解

## Ⅳ期（令和7年10月21日）

講義・演習 学校全体で取り組む情報教育

協議 キャリア教育の推進

講義・演習 学校組織の一員としてーキャリアデザインー

講話 これからの学校教育

### <選択研修>

実施日 令和7年8月7日～8日（2日間）

研修先 小坂町康楽館

研修内容 小坂鉦山における康楽館の役割とその変化について

### <授業研修>

実施日 令和7年9月3日

研修先 秋田県立秋田中央高等学校

研修内容 産業と生活文化（農業）

## 4 特定課題研究

特定課題研究は、校長等の指導の下、各研修教員が特定のテーマを自ら定めて、研修期間を通じて、研修教員が独自に進めていく研究である。私は「小坂鉦山における康楽館と日立鉦山における共楽館との共通点と相違点」というテーマを設定し、教科指導に関する研究に取り組んだ。

## 5 おわりに

今回の研修を通して、これまでの自分の教員生活を振り返るとともに、学校教育とは何か、学校教育では何を求められているのかを考えさせられた。生徒たちと一緒に学ぶ姿勢を忘れず、個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けて、知らないことを知ることは楽しいと感じられるような授業ができるように研修を続けていきたい。また、中堅教諭であるという自覚を持ち、学校運営にも関わられるようにしていきたい。常に研修する姿勢を忘れず、自身のさらなる成長と本県の教育活動に貢献できるように努めていきたい。

なお、次項以降に、本研修のうち「授業研修」の学習指導案、「選択研修」の報告書、「特定課題研究」の研究内容をまとめたレポートを掲載する。

## 地理総合 学習指導案

日 時 令和7年9月3日(水) 2校時  
 クラス 2年D組  
 場 所 秋田県立秋田中央高等学校  
           2年D組教室  
 指 導 者 石木田 倫子  
 使用教科書 地理総合(二宮書店)

### 1 単元名

産業と生活文化

### 2 単元の目標

- (1) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。(知識及び技能)
- (2) 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

### 3 生徒と単元

2年D組男子17名女子14名の計31名理系のクラスである。全員進学を希望しており、落ち着いたクラスである。来年度は全員地理探究を履修することになっている。私たちの暮らしを支える産業がどのように発達し、変化してきたのかなど、現在の産業が抱える問題を考える基礎となる力を身に付けさせたい。そして、産業に関してどのような問題があり、循環型社会の実現に向けてSDGsの観点を踏まえ、どのように行動していくべきか考え、生徒たちが実際に行動を起こせる意識や態度を育てたい。

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。  世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。	世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

## 5 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 【本時】	主食が地域によって違いがあることを説明できる。		主食が地域によって違いがあることを説明できる。	
1	工業の発達によりどのように世界の経済構造が変化し、暮らしが変化してきたのか考察する。	工業がどのように発達してきたのか理解することができる。	工業の発達や世界の経済構造の変化について考察し、その結果を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	
1	世界の商業・サービス業は、グローバル化とICT化でどのように変化してきたのか考察する。		世界の商業・サービス業について考察し、その結果を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	グローバル化とICT化により世界の商業・サービス業がどのように変化し、どのような課題が生じたのかについて、よりよい社会の実現を視野に生徒自らが関心をもって学習に臨み、それらに関する課題を主体的に追究しようとしている。

## 6 本時の計画

### (1) 本時の目標 (ねらい)

主食が地域によって違いがあることを説明できる。

### (2) 学習活動と評価

	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地域の主食を確認する</li> <li>本時の目標、流れを確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような主食があるのか問いかける</li> </ul>	
	<b>本時の目標：主食が地域によって違いがあることを説明できる。</b>		
展開 (35)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループになり、主な農業地域区分にあてはまる位置を地図から選ぶ</li> <li>どの資料をもとに選んだのか、資料の番号と選んだ理由を書く</li> <li>書き込んだ内容を発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各資料を見て、気付いたことや予想をメモしていくように指示する</li> <li>同じ資料を何度用いても、資料はいくつ選んでもよいことを伝える</li> <li>発表者を決めておくように指示する</li> <li>生徒の発表をもとに、答えを確認する</li> <li>教科書で農業地域区分を確認する</li> </ul>	
まとめ (10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人で、まとめを記入する</li> <li>まとめを隣の人と確認する</li> <li>代表者が発表する</li> <li>授業プリントの振り返りを記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メモを取りながら聞くように指示する</li> <li>技術革新によって、自然環境の制約を克服できることを伝える</li> <li>自然的条件だけでなく、社会的条件の影響を受けることもあることを伝える</li> </ul>	<p>◇主食が地域によって違いがあることを説明できたか。</p> <p>・授業プリント (思考・判断・表現)</p>

選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田県立鹿角高等学校	氏 名	石木田 倫子
研 修 先	小坂町康楽館		
研 修 期 間	令和 7年 8月 7日 (木) ~ 令和 7年 8月 8日 (金)		
<p>1 研修の概要</p> <p>&lt;1日目&gt;</p> <p>9:00~ 9:30 ファビュラスレビューボーイズ小坂町長挨拶同行</p> <p>9:30~12:00 康楽館概要説明、施設見学ガイド研修、書籍読書「ザ・康楽館」</p> <p>12:00~13:00 &lt;昼休憩&gt;</p> <p>13:00~16:00 接客マナー講座、歌舞伎公演準備作業</p> <p>&lt;2日目&gt;</p> <p>9:00~12:00 歌舞伎公演準備作業、舞台・照明装置説明</p> <p>12:00~13:00 &lt;昼休憩&gt;</p> <p>13:00~13:45 歌舞伎公演準備作業</p> <p>13:45~15:15 劇団通し稽古見学</p> <p>15:15~16:00 歌舞伎公演準備作業</p> <p>2 研修の成果 (今後への生かし方も含むこと)</p> <p>今回の研修の一番の成果は、小坂鉦山において康楽館はどのような存在だったのか、また現在はどういう存在となっているのか、その役割や変化について学ぶことができたことである。</p> <p>まず、小坂鉦山において康楽館はどのような存在だったのかについてである。最初に館長さんがおっしゃっていたのが、小坂鉦山なしで康楽館はあり得ないという言葉である。明治43年康楽館は小坂鉦山の福利厚生施設の一環として、従業員とその家族がやすらかに楽しんでもらえるようにという願いで誕生したそうだ。当時は、唯一の娯楽といえば芝居だったそうだ。電気を使った芝居小屋は画期的で東北一の芝居小屋と呼ばれていた。小坂鉦山は明治40年には鉦山額全国一を記録するなど繁栄していた。この繁栄に大きく貢献したのが久原房之介である。日清戦争後、小坂鉦山は閉山命令が出たが、それにもかかわらず久原房之介は資金を投入し、黒鉦の「自熔製錬」と称する革命的ともいえる製錬方法を造り出した。この技術が現在のリサイクル製錬へとつながっていくのである。この技術がいかによいのか、黒鉦というやっかいな鉦物と格闘した人々のおかげで今があると思うと、そのすごさと信念に圧倒された。さらに国内初の露天掘り方式が考案され成功、小坂鉦山はさらなる飛躍を遂げる。日本の近代化に大きく貢献し、地域の経済発展を牽引することになるが、従業員は過酷な労働を強いられた。その中でも、小坂には秋田県内初の総合病院ができるなど従業員には一定の配慮がなされていた。康楽館もその一つであり、小坂鉦山に携わってきた人々の熱意や過酷な労働条件の中でも従業員とその家族を思いやる気持ちが康楽館を生んだのだと感じた。</p> <p>次に、康楽館が現在はどういう存在となっているのかについてである。現在の小坂鉦山は資源の採掘はやめ、製錬部門のみとなっており、金属リサイクルを行っている。日本国内だけでは足りず、外国からも不要携帯電話を輸入して、製錬しているそうである。資源を採掘していないのに、このような山の奥に製錬所があるのは、普通では考えられない。輸入資源を使うのであれば、臨海部の方が立地条件はよいはずである。それにもかかわらず、製錬所があり続けているのは、山の中まで輸送してでも求められている技術がそこにはあるということで、黒鉦製錬の技術を生み出したことは本当に画期的なことだったのだと誇らしい気持ちになった。小坂町といえば、あかしあの木が有名であるが、あのあかしあ並木は小坂鉦山の植林から始まっているそうである。小坂町は鉦山の煙で緑が少なかったそうだ。そこで煙に強い木はないかと探し、あかしあの木が煙に強いらしいということで、植林を始め、現在でも続けているそうである。桜や杉の木もあるが、ほとんどがあかしあの木だそうで、そのため純度の高いあかしあ蜂蜜がとれるのだそうだ。なぜ、あかしあの木と蜂蜜が特産品なのだろうと思っていたが、その理由がよくわかった。ここにも小坂鉦山の影響が見て取れ、小坂鉦山あつての小坂町であり、鉦山と町が一体となって取り組む姿勢がすばらしいと感じた。さらに小坂町でとれたぶどうを使った小坂七滝ワイナリーワインも特産品として、康楽館でも販売していた。一方、康楽館は1970年、建物の老朽化と機能低下により、一般の興行は中止となる。テレビの普及もあり、その役目は終わったかと思われた。しかし、町の人々の愛着が強く、康楽館修復の声が上がり、町へ移管され、1986年小坂町営の芝居小屋として「活用なくして保存なし」をモットーに再開する。いかに康楽館が町の人々から愛されてきたのかを感じる事ができた。修復する際には、明治に建てられた芝居小屋であることを意識し、電気で動かすこともできたが、やはり手動だろうということで、切穴と回り舞台は手動になっている。劇団の通し稽古を見学させていただいた際、切穴のガクガクとせり上がる動きが手動を感じさせるものがあり、とても趣があり、舞台・照明装置の中で特</p>			

に印象的だった。現在の康楽館の運営会社は、小坂まちづくり株式会社である。康楽館以外にも小坂鉱山事務所、小坂鉄道レールパーク、小坂七滝ワイナリー、ホテル小坂ゴールドパレスなどを運営している。株の多くを町が保有しており、町の意向が強く反映される会社となっている。あかしの蜂蜜やワインなどの特産品、小坂鉄道レールパークの開園など康楽館だけでなく、さまざまな取組を行っている。持続可能な開発を目指し、町と協力して在り方などを検討している。人口の減少という現状を捉えながら、康楽館を見学した後にご飯を食べたり、周辺を観光したり、地域の活性化につながる活動を模索している。お客様のターゲットとしては小坂周辺地域の住民及び観光客である。康楽館は単なる劇場ではなく、芝居小屋の要素と観光施設の要素の二面性を持った施設であり、さらには文化財として要素も兼ね備えている。

「ザ・康楽館」を読み、役者さんをはじめとした多くの方々から愛される存在であることも知った。研修中に公演のリハーサルを行っていたファビュラスレビューボーイズの方々の小坂町長挨拶に同行させていただいたが、康楽館と小坂町のことをとても大切に考えてくださっており、公演をするだけではなく、観光の面でも力を入れて宣伝してくださっていることがとてもよく伝わってきた。その後、舞台の装飾などをご自身方で行っていることに驚き、手作りの温かみのある舞台がこのようにしてつくられているのだなと感じた。研修の2日目には通し稽古を見学させていただき、とても贅沢な時間であった。表情、衣装、音量、マイク、立ち位置などを確認し、不具合を指摘し合い、足りないものはすぐ買ってこようと判断し、その素早さに驚いた。このようにして舞台はつくられていくのだということを間近で見ることができた。完成されたものだけを見るのではなく、完成形ができるまでの過程や、全員で作っていこうという気持ちが大事だと感じた。そのような方々にも康楽館は守られ、多くの方々から愛される存在となっていることがよくわかった。

今回の研修では、鉱山額全国一を誇った小坂鉱山のすごさ、黒鉱と闘ったことで生み出された「自熔製錬」と称する製錬方法のすごさ、その技術が現在のリサイクル製錬として活かされていること、そこで働く従業員と家族のための施設として誕生した康楽館、開館当時の役割は変化したが、町の人々から愛される存在であることは変わらず、町の人々に支えられ、誇りとなっていることを学ぶことができた。授業などを通して、このような世界に誇れるすばらしい技術が秋田県にあることを生徒たちにも伝えていきたい。そして康楽館を大切にしてきた小坂町の人々のように地元を大切にする気持ちや地元の魅力やすばらしさに気づく機会をつくっていきたい。小坂鉱山と康楽館と小坂町の魅力を存分に知ることができた2日間であった。

(A 4判 1～2枚程度)

特定課題研究レポート

所属校	秋田県立鹿角高等学校	氏名	石木田 倫子			
研究内容	A：本県の教育課題に関する研究 B：マネジメントに関する研究 C：生徒指導に関する研究 D：教科指導に関する研究 E：道徳教育に関する研究 F：特別活動に関する研究 G：総合的な学習の時間に関する研究 H：特別支援教育に関する研究 I：その他 (選択したものに○を付けること)					
研究テーマ	小坂鉱山における康楽館と日立鉱山における共楽館との共通点と相違点					
1 研究の概要	<p>中堅研の選択研修で研修をさせていただいた康楽館は小坂鉱山の福利厚生施設の一環として誕生した。このような鉱山の福利厚生施設として誕生した芝居小屋が他にどこがあるのか興味を湧き、調べてみると、もう一つあることがわかった。日立鉱山の福利厚生施設であった共楽館である。この2つにはどのような共通点があるのか、また相違点はあるのかを鉱山も含めて研究してみた。</p> <table border="0"> <tr> <td>                     &lt;小坂鉱山 康楽館&gt;                      秋田県鹿角郡小坂町                      久原房之助                      鉱山労働者の生活に配慮                      ニセアカシア                      →アカシアが小坂町の花に                      1910年                      従業員と家族の福利厚生施設                      町営の芝居小屋                      2005年                      リサイクル事業(小坂製錬)                      国重要文化財                 </td> <td>                     ①所在地                      ②キーパーソン                      ③対労働者                      ④煙害と植林                      ⑤施設の誕生                      ⑥当時の役割                      ⑦現在の役割                      ⑧鉱山の閉山                      ⑨鉱山の今                      ⑩文化財の種類                 </td> <td>                     &lt;日立鉱山 共楽館&gt;                      茨城県日立市                      久原房之助                      鉱山労働者の生活に配慮                      オオシマザクラ                      →桜が日立市の花に                      1917年                      従業員と家族の福利厚生施設                      市営の日立武道館                      1981年                      日鉱記念館(日立製作所の前身)                      国登録有形文化財                 </td> </tr> </table>			<小坂鉱山 康楽館> 秋田県鹿角郡小坂町 久原房之助 鉱山労働者の生活に配慮 ニセアカシア →アカシアが小坂町の花に 1910年 従業員と家族の福利厚生施設 町営の芝居小屋 2005年 リサイクル事業(小坂製錬) 国重要文化財	①所在地 ②キーパーソン ③対労働者 ④煙害と植林 ⑤施設の誕生 ⑥当時の役割 ⑦現在の役割 ⑧鉱山の閉山 ⑨鉱山の今 ⑩文化財の種類	<日立鉱山 共楽館> 茨城県日立市 久原房之助 鉱山労働者の生活に配慮 オオシマザクラ →桜が日立市の花に 1917年 従業員と家族の福利厚生施設 市営の日立武道館 1981年 日鉱記念館(日立製作所の前身) 国登録有形文化財
<小坂鉱山 康楽館> 秋田県鹿角郡小坂町 久原房之助 鉱山労働者の生活に配慮 ニセアカシア →アカシアが小坂町の花に 1910年 従業員と家族の福利厚生施設 町営の芝居小屋 2005年 リサイクル事業(小坂製錬) 国重要文化財	①所在地 ②キーパーソン ③対労働者 ④煙害と植林 ⑤施設の誕生 ⑥当時の役割 ⑦現在の役割 ⑧鉱山の閉山 ⑨鉱山の今 ⑩文化財の種類	<日立鉱山 共楽館> 茨城県日立市 久原房之助 鉱山労働者の生活に配慮 オオシマザクラ →桜が日立市の花に 1917年 従業員と家族の福利厚生施設 市営の日立武道館 1981年 日鉱記念館(日立製作所の前身) 国登録有形文化財				
2 成果と課題	<p>まず、この2つの鉱山と芝居小屋について調べていて、久原房之助という同じ人物がキーパーソンとして関わっていることに驚いた。久原房之助は、明治24年藤田組に入社して小坂鉱山に赴任し、黒鉱製錬に打ち込み、黒鉱の自熔製錬に成功、今日の基礎を築いた。明治38年に藤田組を退社し、赤沢銅山を買収し、久原房之助日立鉱山を創業し、短期間で四大銅山の一つに数えられるまでに発展させた。久原房之助は、都市から離れた不便な場所にある鉱山での事業を成功させるためには「従業員が安心して働ける環境への配慮」が必要と考え、鉱山での生活水準の向上に力を注ぎ、充実した福利厚生事業が行われた。家族と共に生活できる住居だけでなく、学校や鉄道、病院、娯楽施設を含めたまちづくりに取り組んだ。その結果、従業員の間に連帯感が生まれると同時に、会社内に従業員を尊重する気風が育まれた。また、煙害という公害問題が深刻化した際には、この難題に対しても真摯にかつ実直に取り組む、解決への道筋をつけることに成功した。この2つの点が、小坂鉱山と日立鉱山を日本有数の鉱山として成功させた大きな要因である。従業員を思いやる政策は彼の一山一家主義という理念に基づくものだそうだ。同じ鉱山で働く人々は皆家族のようなものだという考えである。鉱山は常に危険と隣り合わせであり、さらに過酷な労働を強いられる場所である。久原房之助はそのことをよく理解し、鉱山で働く人々の生活環境の整備、その中で福利厚生施設の一環として娯楽施設である芝居小屋が建設されたというわけである。芝居小屋が誕生した経緯は同じだが、現在、どのように活用されているかという点に大きな違いがあった。</p> <p>小坂鉱山は2005年に閉山したが、黒鉱と闘ってきた歴史の中で培った世界に誇れる技術が小坂製錬のリサイクル事業として活かされている。康楽館は一度一般の興行は中止となるが、町の人々の愛着が強く、康楽館修復の声が上がり、町へ移管され、1986年小坂町営の芝居小屋として「活用なくして保存なし」をモットーに再開した。いかに康楽館が町の人々から愛されてきたのかがわかる。現在の康楽館は単なる劇場ではなく、芝居小屋の要素と観光施設の要素の二面性を持った施設であり、さらには文化財としての要素も兼ね備えた施設となっている。</p> <p>日立鉱山は1981年に閉山し、その跡地に日鉱記念館が建てられた。日立鉱山は日立製作所の前身であり、原点である。テレビが普及するに伴い人々の足は劇場から遠のき、共楽館は1967年には閉館し、日立市に寄贈され、日立武道館として新たな役割を担うこととなった。共楽館の建物を産業遺産の文化財として保全・復元・活用するよう目指して活動してきたグループもあり、人々から愛されてき</p>					

たことがわかる。

小坂鉦山も日立鉦山もそれぞれの地域の現在の産業につながる原点であり、煙害対策として植林された木がその市や町の花となるなど地域に根ざした鉦山であったことが窺える。従業員と家族の福利厚生施設として誕生した康楽館も共楽館も築100年を超える建物は健在で、異なる形ではあるが、地元の人々をはじめ、多くの方々に愛され、利用され続けている。

今回の研究では、ずっと気になっていた小坂鉦山と康楽館について詳しく知ることができた。さらに、同じような鉦山と芝居小屋が他にもあることがわかった。本校で使用している地理探究の教科書「帝国書院 新詳地理探究」には「都市鉦山」という言葉とともに小坂製錬の作業の様子を映した写真が掲載されている。リサイクル事業で世界的にも有名な企業が近くにあることを知っているか生徒たちに質問すると、すぐに「小坂製錬」と答えるクラスが多かった。しかし、答える生徒は数名で、もっと生徒たちに認知されていてもよいのではないかと思った。そのため、私は授業で資源・エネルギー問題を扱う際には必ず小坂製錬の話をするようにしている。しかし、紹介するだけにとどまっているので、今回の研究内容を踏まえて、鉦山での暮らしや康楽館の存在、日本各地の鉦山の話などをしてみたい、生徒自身が調べたりする活動を行うなど、幅広い展開にしていけるのではないかと考えた。そして、このような具体的な話を取り入れることで、地元のを大切に思う気持ちや誇れるものがあるという地元の良さに気づく機会を授業などを通してつくっていきたいと思った。どちらの地域も鉦山と芝居小屋、町が深く結びついており、その歴史が現在にまで続いている。歴史を知ることが今を知ることにつながっている。歴史を知ることの大切さやおもしろさも伝えていきたい。

<管理職の先生方からのご指導>

○校長先生

この度の特定課題研究は、地域を代表する産業と施設というだけでなく、それらと類似したものが他地域でないかと考え研究に取り組むという大変興味深いものであった。産業の発展とともに、人を大事にする企業の姿勢が感じられ、そのような企業だからこそ、鉦山閉山後も人々に愛される存在になり得たのではないだろうか。

地理探究の教科書に小坂製錬に関する写真が掲載されているが、世界的な有名企業であることに対して、本校生徒の認知度が低いという実態を知り、残念に思った。授業等での周知と共に、職場訪問など実際に目で見て、体験する機会を作る必要があると感じた。インターネット等で何でも知ることができる世の中であるが、アナログの取組を上手に組み合わせることで、より深く理解できるものと考ええる。

中堅教諭等資質向上研修での取組が、今後の学習指導等の発展・充実に大いに寄与してくれることを期待する。

○青山教頭先生

とても勉強になりました。非常に興味深く読ませていただきました。康楽館と似たような境遇の建物が存在することにも驚きましたが、どのような変遷が時代と共にあったのかを知ることができたのが新鮮でしたし、改めて康楽館が歴史的にも価値のある芝居小屋であるのだなと感心しました。ぜひ授業でも触れて生徒に地元の歴史の魅力を伝えて下さい。

○石井教頭先生

文化財の種類も記載した方がよいのではないかと。鉦山は基本一山一家主義であるが、企業のトップである人物が推し進めた政策だという点で重要である。また、鉦山には接待や宿泊などを目的とした社交場である倶楽部が建設されることはあったが、福利厚生施設として従業員だけでなくその家族も対象とした芝居小屋を作ったという点が他と違うところである。そこに久原房之助という人物の考え方が表れている。久原房之助という人物についてももう少し紹介してはどうか。

(A4判1～2枚程度、研究に関わる資料等があれば添付すること)

## 【前期校内授業研修会】

## 前期授業相互参観について

1. 実施期間 令和7年4月28日(月)～5月16日(金)
2. ねらい 相互に授業を参観することで、授業に生かせるヒントを得て、「深い学び」に繋げる授業づくりを推進する。
3. 授業を見る観点
  - (1) ペアワークやグループワーク等を授業に組み込み、生徒の主体的な活動を促しているか。
  - (2) 発問の工夫により生徒の思考を促しているか。
  - (3) 振り返りの時間を設定し、意欲的な学習へつなげているか。
  - (4) ICTが効果的に活用されていたか。
4. 実施方法
  - (1) 期間中、担当教科及び担当以外の教科合わせて2回以上参観してください。  
(短時間の参観でも可)
  - (2) 「授業参観シート」に記入し、研修・図書部(担当:石川先生)に提出してください。
  - (3) 5月19日(月)予定の前期校内授業研修会において、教科ごとに「授業参観シート」を活用して研修を行います。

## 前期校内授業研修 実施要項

研修図書部

- 1 ねらい 相互授業参観の結果を受けて、自分の教科だけではなく、他教科の先生方の感想やアドバイスを参考にしながら、授業に生かせるヒントを得て、「深い学び」につなげる授業改善の方法を探る。
- 2 期 日 令和7年5月19日（月） 15:45～16:35
- 3 場 所
- |          |       |      |
|----------|-------|------|
| ・ 国語科    | 選択教室  | I    |
| ・ 地歴・公民科 | 選択教室  | II   |
| ・ 数学科    | 選択教室  | III  |
| ・ 理科     | 化学室   |      |
| ・ 保健体育科  | 選択教室  | IV   |
| ・ 芸術科    | 教育相談室 |      |
| ・ 英語科    | 選択教室  | V    |
| ・ 家庭科    | 選択教室  | VI   |
| ・ 情報・商業科 | 選択教室  | VII  |
| ・ 工業科    | 選択教室  | VIII |
- 4 実施方法
- (1) 「授業参観シート」を活用しながら研修を進めてください。  
「授業参観シート」は、授業者の先生と教科主任に16日まで、配付します。
- (2) 教科主任の先生が話し合いを進めてください。  
記録を担当する先生を決めてください。
- (3) 研修内容の記録用紙（原本）が  
鹿角高校データ→06研修・図書→R7→09校内授業研修会→前期  
授業研修記録用紙  
にありますので、コピーの上記入して5月26日までフォルダ内に保存してください。
- 保存ファイル名： （例）英語科記録用紙

## 前期授業研修(5月19日実施) 記録用紙

### 国語科

#### ◆ 他教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- 前時の復習として、提出させたプリントから生徒の理解度を見極め、足りていないところを補う方法は参考になった。
  - ペアワークのルールがしっかり決まっており、目的に向かった活動ができている。
  - 授業の流れがスムーズ。カードを使つての指名で不公平感が出ない工夫がされている。
  - 隣の生徒と時間を決めての話し合い・音読など、言語活動が効果的に設定されている。
  - 電子黒板上で教科書の該当箇所には線を引き、関連する部分との関係性をわかりやすく提示していた。「聞いてわかる授業」から「見て分かる授業」で生徒の関心や思考を深めている。
  - 生徒の発言を大事にしてしっかり対応することで、生徒たちが授業に引き込まれている。
  - 古典の学び始めに、生徒の興味と理解を深めさせる工夫や教材研究がしっかりなされている。
- △ 反応が薄いクラスでは、フリートーク的な時間も設定すると緊張が和らぐと思う。

#### ◆ 自教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

〈参観シートから〉

- 生徒とのコミュニケーションがよくとれる関係ができている。
  - ノートの指導が行き届いており、どの生徒もしっかりときれいな字でまとめられている。
  - 導入での指示が明確で、今時のめあてや活動がわかりやすい。
  - 古典の一般常識を作品と融合させて紹介することは、理解を深めるのに効果的である。
- ◎「言語活動」の取り入れ方として  
授業中の約束事にもとづいたペアワークであることを、4月から何度も言い聞かせて取り組ませている。……役割を果たす・根拠を持って意見を述べ合う・意見をすりあわせ、折り合いをつけたことを全体で発表する、など。
- ◎「ICT」の活用について
- ・ 本文を電子黒板に写し出し、全体で関係性が見えるようにする。
  - ・ 電子黒板上で動画を探することができる。
  - ・ 生徒にクローズドブックで検索させた時、場合によっては全員が情報を共有するように、使用する文献や資料を指示する。
  - ・ 「カフート」の活用による振り返り活動の可能性。
  - ・ 考える力・書く力を育てる活動として……
- 本時の流れや要点を自分でまとめる(穴埋めではない)ログシートを書かせて提出。キーワードを捉えているか、設問に適切に答えているか等で評価をして次時の始めに返却。授業者が望ましい捉え方・まとめ方を電子黒板に映し出して説明を加えることで、理解が足りていないところを生徒自身が確認して、次の学習に進ませる。

#### ◆ 科としての今後の授業改善への取組

【問題提起】「振り返り」とは何を、どうするのが効果的なのか。

## 前期授業研修(5月19日実施) 記録用紙

地歴公民 科

### ◆ 他教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

他教科からの参観なし

### ◆ 自教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

#### <良い点>

- ・生徒とのコミュニケーションをとるための導入が各科目で工夫されている。
- ・ノートを使う授業、プリントを使う授業、クロームブックで探究をする授業などそれぞれの科目の特性を生かした形で展開されている。
- ・電子黒板で資料を提示できるので今何をしているかがわかりやすい。
- ・生徒の発言を生かし、学習課題に繋げることで生徒たちが授業に引き込まれている。

#### <課題点>

- ・調べ学習などでネットの結論ありきで自分で考えようとしていない傾向が見て取れる。
- ・基礎事項が定着していないので、自分の意見を出すような学習でうまく意見を出すことができない。
- ・グループワークなどで社会問題を話し合うような授業でも基礎的な内容で終わってしまうのでさらに時間が必要になる。

### ◆ 科としての今後の授業改善への取組

#### <「ICT」の活用について>

- ・電子黒板、クロームブックが使えるようになったことで写真やデータなどを簡単に扱えるようになった。
- このことにおけるメリットとして、数行の感想文を入力させたり、15分程度の簡単なレポート作成、問題を配信し取り組ませることなど授業の幅は広がっている。
- さらに、その時々に必要なデータや動画などもその場で探して提示することができるので、授業そのものが思わぬ方向へ広がりを見せる場合もある。
- △授業改善はこのICT機器の活用とアナログの融合が課題であり、他校の成功例などをどんどん取り入れていく必要性を感じている。

## 前期授業研修(5月19日実施) 記録用紙

### 数学 科

#### ◆ 他教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

内川先生の授業：

生徒の使っているプリントと同じ画面を写すことで視覚的に分かりやすい  
(藤島先生)

黒澤先生の授業：

電子黒板を効果的に使えている。  
話し合いの時間や考えさせる時間を確保できている。  
言葉選びの大切さに気づかされた(小田島先生)

#### ◆ 自教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- ・ エスビューアというソフトで動的図を出せる。
- ・ 関数ソフト `geogebra` , `grapes` などで生徒にソフトを触れさせる。  
→ 使い方の説明に時間がかかりそう  
正しい値ではあるが、値の増減などでデメリットはある。

#### ◆ 科としての今後の授業改善への取組

- ・ ICTは効率化の手段として利用できそう。
- ・ 紙に書くことのメリットやICTのデメリットを考える必要がある。
- ・ 生徒・教師間の双方向でICTを利用するのは学力差が顕著に出る。

## 前期授業研修(5月19日実施) 記録用紙

理 科

### ◆ 他教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- ・電子黒板が活用されていた(石木田先生、小松先生、松岡先生)
- ・発問の問いかけがしっかりされていた。(石木田先生)
- ・しっかりとメモを取らせる時間を作っていた。(松岡先生)
- ・発問しやすい空気を作っていた(小松先生)
- ・作問をさせる授業をされておりよかった。事後のフィードバックを入れるとなおよいと感じた。(吉原先生)

### ◆ 自教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- ・発問の工夫がよかった。答えが多様な発問をすることで、生徒の関心が高まるようだった。
- ・発問から出る生徒の多様な答えを、あまり否定しないように展開することが重要である。
- ・「顕微鏡の使い方をマスターしてほしい」「記録タイマーのデータを読み取り考察してほしい」など、先生ごとに意図のある実験を行っている。発問と実験が重要と共通認識を確かめた。

### ◆ 科としての今後の授業改善への取組

- ・この会のような意見交換・議論自体が重要である。互いに定期的に情報・成果を共有しあうことを結論とした。

## 前期授業研修(5月19日実施) 記録用紙

保健体育 科

### ◆ 他教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

特になし

### ◆ 自教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- ・プリントを使用し、本時の学ぶべき学習内容やめあてがわかりやすかった。生徒への言動も丁寧で生徒たちの授業に向かう姿勢も素晴らしかった。(大森→月居)
- ・授業の準備がしっかりされていた。作成したプリントと保健ノートの内容がほぼ同じなので保健ノートを活用して授業を進めてもいいと思う。時間短縮のため。  
(佐藤範→月居)
- ・ICTが効果的に活用されていた。また、生徒への発問が適切であった。生徒の発言を拾いながら本題へとつなげている導入部分がよかった。(新林→佐藤太)
- ・ICTと板書のバランスがよかった。配信によるテストもよかった。(評価する材料を残すことができる) 反省点としては授業における目標が誰に向けての目標かわかりづらかった。先生なのか生徒に向けてなのか表現の工夫が必要である。  
(佐藤範→佐藤太)
- ・授業の展開部分の後半で本時の目標を提示していたが、授業の始まりで提示すべき。(佐藤範→新林)
- ・資料の効果的な活用や板書のわかりやすさ、生徒の反応を確認しつつ丁寧に授業を進めていて参考になりました。女性や教師としての立場や経験からの視点での説明をしていて考えさせられました。(月居→新林)
- ・プリントでは文章だけでなく、イラストで表現する項目などもあり、自分も取り入れてみたいと感じました。また、生徒の発言を引き出すためのヒントやユーモアは参考にしたい。生徒の意見を使いながら、全体に説いて投げかけていることは印象に残った。(佐藤太→石井)

### ◆ 科としての今後の授業改善への取組

○授業での生徒の深い学びにどう繋がられるか話し合いました。

- ・授業の中で言葉に出させる場面をたくさん設けるようにしている。(小林)
- ・アウトプットさせる場面を3～5回は設けるようにしている。(鳥潟)

- ・自分の考えを持たせる。相手の意見や考えを聞いて相手の意見を受け入れることが気づきに繋がると思う。だからこそ身近な話題で自分事として捉えられる課題選びなどが重要。(佐藤太)
- ・深い学びには気づきが必要で、まずは自分の考えを持たせる。ペアワーク・グループワークを通して相手の意見を聞く場面を設けて相手の意見を受け入れることが重要。できれば、他教科との繋げる部分や先生や他の大人の意見や考えなどにも触れる場面を作ることによって気づきのある深い学びにつながると思われる。(月居)
- ・ビフォー・アフター。はじめに出した自身の考えや答えを、授業を進め様々な活動を通じたことでどう変化したかを確認する振り返りを行うことで深い学びへと繋がられる。(佐藤範)

まとめとして、授業目標を明確にして、授業のまとめ(ゴール)をしっかりとさせる。授業目標は常に確認できるようにする。スタートからゴールに向けてグループやペアでの活動、ICTの効果的利用をし、生徒の気付きへ繋がる授業構成が必要である。授業はじめの考えをはっきりさせることと、他の意見を聞く場面の設定など授業の中での気付きから、最後はどのように自身の考えが変化したかを把握できるまとめとすることで意見がまとまりました。

## 前期授業研修(5月19日実施) 記録用紙

芸術科

### ◆ 他教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

(なし)

### ◆ 自教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- ・「音階（オクターブ）がなぜ12に分かれているの？」という問いは、生徒も私も考えたことのない視点であり新鮮だった。その後の「半音」「全音」の言葉の由来を調べようという意欲に繋がった。
- ・生徒にたくさん歌わせて、理論と音の感覚を繋げることができていた。
- ・皆が知っているアニメ曲を例として出すことで生徒は実感をもつことができた。
- ・曲のイメージを絵で描かせたことで音美どちらの生徒にも取り組みやすい内容となった。
- ・スライドを用いた1つ1つの説明が明確でわかりやすかった。
- ・理論を確認した後に実際の作品をみせることで、生徒の納得感が増していた。
- ・発表の機会が多く、主体的に学習に参加できていた。
- ・何度も繰り返すことで、基礎的な内容を定着させることができていた。

### ◆ 科としての今後の授業改善への取組

- ・授業の導入部でフックとなる問いを投げかけることで、その後の学習の深まりに繋がるのではないかと。生徒の知的な好奇心を刺激するような発問を心がける。
- ・授業行程を理論先行で進めるか、実技先行で進めるかは、クラスの特徴に合わせて柔軟に考え、クラス毎に変更してみる。その際、評価項目が同じになるように留意する。
- ・基礎学力の定着や理論理解に重点をおく時間と、感性を重視して自由に表現する時間のバランスを工夫し、活動にメリハリをもたせる。
- ・学びが深まらない生徒の多くは、意欲が低いというよりは、知識不足からくる自信のなさが、発言や表現を躊躇させているように感じられる。小中学校の学習事項を丁寧に振り返り、確認する機会を設ける。
- ・言葉の説明に加えて、実物（映像・音等）を提示することは、直観的な理解を促し、より強い印象を与えられるため、ICTの活用は不可欠。電子黒板の導入は難しいため、当面はホワイトボードとプロジェクターを組み合わせることで対応する。

## 前期授業研修(5月19日実施) 記録用紙

### 英語科

#### ◆ 他教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- ・積極的に ICT の活用がなされていて非常に参考になった。
- ・ゴールがはっきりしていて生徒のやる気向上に繋がる。
- ・単語の定着に向けて4択のゲーム形式で取り組むことで、楽しみながら学ぶ雰囲気を作られていた。
- ・リスニングの学習では、リスニングと共有を繰り返し、英文、和訳、ヒントを追加していくことによって気づきと安心感が見られた。
- ・ペアでの学習、全体での学習がバランスよく、飽きのこない授業だった。
- ・最後に writing でまとめ、しっかりと表現という形で終わっていた。

#### ◆ 自教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- ・動画を用いて生徒に興味・関心をもたせた。  
(Google スライドに動画を貼ると広告が出ない)
- ・Listening で回数ごとに色分けしてメモを取らせていた。
- ・Listening で聞き取った内容をメモに取らせ、パートナーとシェアするなどしながら内容理解を深めている。
- ・Bang Bang Reading が面白かった。
- ・書き写す作業、考える活動などメリハリのある授業展開である。
- ・表現活動では個人に指名し、後にクラス内で共有する recast が自然に行われていた。

#### ◆ 科としての今後の授業改善への取組

##### 授業全体として

- ・生徒を励まして協力的な雰囲気を作り出しており、これを大事にしていきたい。
- ・教員はファシリテーターとして生徒の活動を後押しし、生徒だけで完結する活動をさらに推進すべきである。
- ・音読でベースを作りリテリングさせるなど、生徒の発話量を増やす。

##### AI の活用について

- ・Speaking において、最初は AI と練習し、その後対人で話す。
- ・作文の添削を AI でやると生徒は喜ぶのではないか。
- ・AI で音読の評価を実践してみる。
- ・大学受験へ向けての活用を検討する。

## 前期授業研修(5月19日実施) 記録用紙

### 家庭科

#### ◆ 他教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- ・前時の振り返りや、様々な発問に対して、多くの生徒が速やかに反応し回答していた。
- ・教科書の重要箇所アンダーラインさせるのみならず、より具体的な生徒達の身近な話題に落とし込むことで、生徒の集中を引き出していた。
- ・実技指導ならではの準備、指示が的確であった。
- ・同じ指示をしても生徒によって作業の進行状況が異なっていたが、生徒それぞれに応じた個別指導が行われていた。
- ・地元の歴史を取り入れての授業は、学校にとっても生徒にとっても大変良い取り組みであると感じた。
- ・生徒間の言語活動の設定があまり見られなかった。

#### ◆ 自教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- ・例題を多く挙げ、問いかけて導いているところが良かった。
- ・社会のルールについて、まとめていた。
- ・より詳しく、丁寧に説明されていたことが印象に残った。

#### ◆ 科としての今後の授業改善への取組

- ・実習を多くして、技能を高めさせたい。
- ・外部講師や、DVDなどを適所で活用し、分かりやすい授業になるよう工夫する。
- ・ICTを必要に応じて活動する。
- ・生徒間での教え合いも大事にしていきたい。
- ・調べ学習だけにならないように、必ず発表させるなど工夫をする。

## 前期授業研修(5月19日実施) 記録用紙

商業・情報 科

### ◆ 他教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

情報科について

- ・パソコンをうまく活用し、文字の使い方、理解の仕方、どのような考え方があ  
るかなど、幅広く活用している。
- ・自分の意見だけでなく3、4人でグループワークを行い、互いの意見交換を行  
い、生徒同士で考え方を共有している。
- ・ゆっくり話し、説明も丁寧であった。

商業科について

- ・前時の復習を全員で行い、本時の問題演習に必要な用語の確認をした上で問題  
演習を行っており、そのサイクルが生徒の自発的活動を促している手法であっ  
た。自学につながる手法である。
- ・単なる問題演習でなく、演習問題ができた生徒は周りの生徒に教える、あるい  
は生徒同士で学びあうようにしていたことが印象的であり学び合いになってい  
た。

### ◆ 自教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- ・教員自身の経験談を含め、話題が豊富で生徒にとって「身近な話題」に結びつ  
けていたのが良かった。
- ・「身近な話題」を取り入れ、生徒の関心を逃さない工夫を自分の授業に取り入  
れたい。
- ・電子黒板を活用して視覚に訴えた授業展開である。
- ・説明時には電子黒板に注目させ、要点をわかりやすく説明している。

### ◆ 科としての今後の授業改善への取組

- ・説明する時と、それを理解して学んだことを活用していく場面をきちんと分け  
ることが重要。
- ・まずは個人で考え、それをグループで共有し意見を高め合って、各個人の意見  
を持ち、最終的には自分の考えをみんなの前で発表する場面を作っていく。

前期授業研修(5月19日実施) 記録用紙

産業工学 科

◆ 他教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

(他教科の先生の参観無し)

◆ 自教科の先生方からの感想・意見・アドバイス等

- ・ ICTの活用を増やしたい。  
(おもに授業を行う実習棟には、電子黒板、書画カメラ、PCなどの設備があるため、それを生かした授業展開が必要)

◆ 科としての今後の授業改善への取組

- ・ 振り返りの時間の確保
- ・ ICT活用の工夫
- ・ 個人差に応じた授業展開(習熟度別などの検討)
- ・ 実習棟電子黒板の増設をお願いしたい

**【後期校内授業研修会】**

## 理科学習指導案

日 時 令和7年11月14日(金)6校時  
授業者 和田 宏哉  
生徒 第2学年B組9名  
科目名 生物

### 1 単元名

第1章 生物の進化 第3節 遺伝子の組み合わせの変化 2. 染色体と遺伝子  
教科書 数研出版 生物

### 2 単元の目標

- (1) 遺伝子の変化に関する資料に基づいて、突然変異と生物の形質の変化との関係を見いだして理解すること。
- (2) 交配実験の結果などの資料に基づいて、遺伝子の組み合わせが変化することを見いだして表現すること。
- (3) 進化のしくみに関する観察、実験などを行い、遺伝子頻度が変化する要因を見いだす方法を身に付けようとする。

### 3 生徒と単元

2年B組は授業における問いかけやグループワーク等の学習場面では、生徒からの発言が多く見られる。一方で、既に生物基礎で学習した内容を忘れてしまっている生徒も見られるが、周囲の生徒が声かけやサポートを行い、全員で協働的に学習を進めることができている。

中学校ではこの単元について、染色体にある遺伝子を介して親の形質が子に伝わること及び分離の法則について学習している。本単元で扱う内容は、有性生殖によって遺伝子の多様な組み合わせが生じることや遺伝子の組み合わせが変化することなど、中学校理科や生物基礎から大きく難易度が上がる。そのため、観察、実験や問題演習などを通して、規則性や法則を正しく理解した上で遺伝の特徴を見いだして表現させることを通して理解を深めさせていきたい。

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
遺伝子の変化に関する資料に基づいて、突然変異と生物の形質の変化との関係を見いだして理解している。	交配実験の結果などの資料に基づいて、遺伝子の組み合わせが変化することを見いだして表現している。	進化のしくみに関する観察、実験などを行い、遺伝子頻度が変化する要因を見いだす方法を身に付けようとしている。

6 本時の計画

(1) 本時の目標(ねらい)

形質の受け継がれ方に遺伝子の連鎖と独立が重要であることを、問題演習を通して理解することができる。

(2) 学習活動と評価

段階 (分)	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を確認する。</li> <li>・本時の目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有性生殖について確認するための質問をする。</li> <li>・遺伝子がどのように子へ伝えられるのかを問いかける。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     本時の目標: 遺伝子がどのようにして子に受け継がれるか理解する。                 </div>		
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子座や対立遺伝子という語句を確認する。</li> <li>・ヒトの染色体と遺伝子の関係から、遺伝子の連鎖と独立について確認する。</li> <li>・分離比の書き方と求め方を確認し、練習問題を解く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトの血液型を例に、対立遺伝子について理解を深めさせる。</li> <li>・連鎖と独立を正しく理解するために、板書を写す時間を十分に確保する。</li> <li>・分離比を求める基礎を身に付けさせるため、生徒に考え方を黒板に書かせて全体で確認しながら進める。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     分離比を求める際、遺伝子の連鎖と独立を踏まえて正しく比に表すことができる。                 </div>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配偶子の分離比の求め方について、問題の解説を聞き確認する。</li> <li>・振り返りを入力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が黒板に書いたものを活用し、配偶子の分離比の求め方をまとめる。</li> </ul>	

## 令和7年度後期授業研修会 生物分科会

授業者：和田宏哉先生 司会：佐藤政弘先生 記録：細川

### ①授業者からの授業についての説明

和田先生：授業内容は生物の進化における「遺伝子の組み合わせ」である。授業の目標は遺伝子の受け継がれ方の理解と分離比の求め方の習得である。中学校での既習事項を踏まえつつ、新しい内容を織り交ぜながら授業を展開した。

### ②授業についての質疑応答

なし

### ③「主体的・対話的で深い学び」の授業についてフリートーク

付箋を用いて、良かった点と改善点を参加した先生方で出し合った。

良かった点；画像で提示しているが、生徒の書く時間を確保出来ている。

スライドが分かりやすい。

発言の機会が多く、学び合いが出来ていた。

生徒が楽しそうに授業を受けている。(顔を上げて参加)

スライドで今日の授業の中身の流れが分かる。どこを学習しているのかがわかりやすい。

生徒の興味をしっかりと引けていた。

生徒が粘り強く問題に取り組んでいた。諦めたり、逃げたりする生徒がいない。教科書やノートを使わずに、思い出させるようにヒントを与えながら復習が出来ていた。

段階的にヒントが与えられていた。

説明のペースが良く、聞きやすかった。

物理で寝ていた子が、起きていた。

相談しながら出来ていた。クラスの雰囲気良かった証拠。

以上の事があげられた。

### 改善点：大人しい生徒への問いかけ

黒板にヒントみたいなのが残っていると練習問題が解きやすかったのではないだろうか

ICTの良い点もあるが、スライドが残らないというデメリットもあるのでは？

クラスとしての全体の活動はあったが、個の活動が見たかった。

生徒に考え方を書かせる部分が見たかった。

振り返りの時間がとれれば良かった。(時間配分を考えるべき)

生徒が遺伝のシステムを分かっていないのでは？⇒確認が必要だった。

すぐに一般化ではなく、具体例⇒一般化の方が分かりやすかったのではないか。

評価の仕方はどんなの？

基礎が定着していない人は、間違っ了解釈をしてしまうのではないだろうか？

和気あいあいと出来ていたが、生徒間のいじりが度を越えたものになればどうするのか。

練習問題を行う前に、組み合わせの確認を行えば良かったのではないか？

一緒に解き進めても良かったのではないか。一緒に絵を描く。

どのタイミングで、グループワークか、ペアワークか、先生との対話かが分からない。

用語の説明をしているようでしていないのでは？

ヘンテコな意見が時間を食う⇒防止策を考えたら良かった。

#### まとめ

- ・生徒の理解度を優先することによって、時間配分の優先順位を下げってしまう。  
⇒メインの問題やその授業内のメインを出来るように。
- ・自分分は分かっているため、自分の分かるになりがち  
⇒黒板の使い方

## 第2学年A組 保健体育科学習指導案

令和7年11月14日 6校時

場所：秋田県立鹿角高等学校

指導者：佐藤 太一

### 1 単元名

健康をささえる環境づくり 環境と健康

使用教科書「現代高等保健体育（大修館書店）」

### 2 単元の目標

- (1) 環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について、理解することができるようにする。（知識及び技能）
- (2) 環境と健康に関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な設備や活用方法を選択し、それらを説明することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について、自他や社会の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

### 3 生徒と単元観

#### (1) 単元観

健康の保持増進には、個人を取り巻く自然環境や社会の制度、活動などが深く関わっており、全ての人が健康に生きていくためには、環境を整備しそれを活用する上で、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、環境と健康について、理解を深めるとともに、これらの課題の解決に向けて思考・判断・表現をすることができるようにする必要がある。

#### (2) 生徒観

環境と健康について、基本的な知識、用語等の名称や意味は理解できているが、環境と健康に関わる対策、活動などの事象や情報がどのように関わり合っているのかという認識が足りないところがある。

#### (3) 指導観

単元観、生徒観を踏まえ、環境と健康について課題の解決に向けて思考・判断・表現をすることができるように、自分の意見を持つこと、それを他の人に伝えること、そして自他の意見をまとめ、また伝えることを意識した指導を実践したい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>②健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であること、そのために環境基本法などの法律等が設定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>③上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていること、その現状、問題点、対策などを総合的に把握し改善していかなければならないことについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。</p>	<p>①環境と健康について、それらに関わる事象や情報などを整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>②人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。</p> <p>③環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	<p>①環境の汚染と健康、環境と健康に関わる 対策、環境衛生に関わる活動について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

5 指導と評価の計画 (4 / 5 時間)

時間	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 大気汚染と健康	<p>人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということを理解できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大気汚染を例に取り上げて、その原因と健康影響について理解する。</li> <li>2 大気汚染を防ぐために、どのような対策があるのかを調べる。</li> <li>3 大気汚染の防止対策を整理し、発表する。</li> </ol>	①			人間の生活や産業活動は、大気汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり、書いたりしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。〈知-①〉
2 水質汚濁、土壌汚染と健康	<p>環境と健康について、それらに関わる事象や情報などを整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 前時に学習した大気汚染と健康について振り返る。</li> <li>2 水質汚濁について、その原因と健康影響について理解する。</li> <li>3 水質汚濁を防ぐために、どのような対策があるのかを話し合う。</li> <li>4 水質汚濁の防止対策をワークシートにまとめ、発表する。</li> </ol>		①		環境と健康について、それらに関わる事象や情報などを整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している内容を【観察・ワークシート・発表】で捉える。〈思-①〉
3 水質汚濁、土壌汚染と健康	<p>人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということを理解できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 前時に学習した水質汚濁と健康について振り返る。</li> <li>2 土壌汚染を例に取り上げて、その原因と健康影響について理解する。</li> <li>3 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の関係性について理解する。</li> </ol>	②			人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということを理解したことを言ったり、書いたりしている内容を【ワークシート】で捉える。〈知-②〉
4 環境と健康に関わる対策	<p>環境と健康に関わる対策について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組むことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 前時に学習した土壌汚染と健康について振り返る。</li> <li>2 環境と健康に関わる対策について理解する。</li> <li>3 廃棄物処理施設について、どのような課題があるかを話し合う。</li> <li>4 廃棄物処理施設の課題について、ワークシートにまとめ、発表する。</li> </ol>			①	環境と健康に関わる対策について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。〈態-①〉
5 ごみの処理と上下水道の整備	<p>上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていること、その現状、問題点、対策などを総合的に把握し改善していかなければならないことについて、自他や社会の課題の解決方法と、それらを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明することができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 前時に学習した環境と健康に関わる対策について振り返る。</li> <li>2 ごみの処理、上下水道の整備について理解する。</li> <li>3 上下水道の整備の方法、課題と解決方法について話し合う。</li> <li>4 上下水道の整備の方法、課題と解決方法について、ワークシートにまとめ、発表する。</li> </ol>			②	環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それらを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している内容を【観察・ワークシート・発表】で捉える。〈思-②〉

## 6 本時の計画

### (1) 本時のねらい

環境と健康について、それらに関わる事象や情報などを整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができるようにする。(思考・判断・表現)

### (2) 学習活動と評価

段階	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入 15分	1 前時までに学習した大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の関わりについて確認する。  2 基礎的な環境と健康にかかわる対策について確認する。  3 本時の目標と流れを確認する。	・前時欠席した生徒には、教科書等を参考にさせる。	
	本時の目標 ごみの不適切な処理による環境・健康への影響を考えられるようになるう。		
展開 30分	4 一般廃棄物と産業廃棄物について確認する。  5 テーマに対して調査し、ワークシートにまとめる。  6 グループに分かれて、調べたことを共有する。  7 グループで共有したことをGoogle スライドにまとめる。  8 発表をする。	〈個別〉 ・机間指導を行い、つまずきがある生徒に助言する。  〈グループ〉 ・発表することを意識したまとめになるように助言する。 ・他のグループの発表を聞いて、ポイントなどをまとめるように助言する。	<b>【思・判・表】</b> 環境と健康について、それらに関わる事象や情報などを整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 〈観察・ワークシート・発表〉
まとめ 5分	9 本時の学習の振り返りを行う。	・本時の目標を再確認し、ワークシートを利用して、学習を振り返る。	

## 令和7年度後期授業研修会 保健分科会

授業者：佐藤太一先生 司会：佐藤範朋先生 記録：月居克夫

### ①授業者からの授業についての説明

授業者：今回は環境と健康という単元で特に産業廃棄物に関わる分野であった。目標としては、環境と健康について整理したり関連付けたりして、環境廃棄物に対してより深く知ることによって環境への影響をしっかりと抑えて、「自分達の身近なこととして捉えることができるようになれば良い」という目標を立て、学習活動を行った。最後の学習の振り返りを時間内に終わることができず、反省点としては内容の詰め込みすぎだったと感じている。

### ②授業についての質疑応答

小坂先生：2点質問。今回の授業は記録に残す評価なのか記録に残さない評価なのか。次、記録に残す評価であれば、今回生徒の発表があったが、何ができた場合評価のAに値するのか。

授業者：発表のところで判断というよりワークシートにしっかり記入しているかで判断。学習の振り返りを最後に設けたことで今日の目標に対してしっかりと思考し判断できているかを残している。  
自分で分かることができたがB評価。A評価は、他の人の判断を取り入れながらしっかりと理解することができているとした。

長崎先生：保健のノートに先生が言ったことを書いているのは普段からやらせていることなのか。毎回授業でワークシートを渡しているのか。

授業者：各単元の内容にもよるが、ノートだけを使うときもあればワークシートだけを活用するときもある。毎回というわけではない。

風馬先生：調べることが4種類あったが、教科書からなのか。

授業者：授業を組み立てる中で自分で4種類に分類した。

藤原先生：4番目の選択者がいなかったことについて

授業者：選ばなかったことについては想定し、ある程度こちらで調べたものを用意していた。生徒自身が選んだという実績を作るための選択肢とした考えで、これを選んでいないから駄目ではない。その後の分かれ方については考える余地があった。

奈良先生：電子黒板に常に本時の目標が提示されていて分かりやすかった。また、本時の流れも常に提示されていて見通しを持てる。ICTの活用も慣れていて素晴らしく感じた。

授業者：すべて一回しか指示をしないことにも驚かされた。繰り返しの指示が一つもなくして習慣づけされていて素晴らしく感じた。

授業者：一回だけの指示に関しては、そこまで意識はしていない。理解力があるクラスであることが大きかったと思う。電子黒板に説明があること、そしてプリントにも説明があることである程度見通しが持てている状況だったので効率よく作業に向かうことができたと思う。

奈良先生：事業系ゴミ袋を実際に教室のゴミ袋で確認するところや最後のまとめの指示に関しても簡潔な指示をしていて素晴らしかった。

4種類の廃棄物がそれぞれ何から出なのかやどこから出されるのかが気になった。またどういう種類があるかなどもあるとすっきりしたと思う。  
例えば、有機窒素化合物はどんなの？どこから出るの？何で悪いの？というのが気になった。

授業者：それに関しては作成していて自分自身も気になっていた。

体育科から、

電子黒板の使い方、ICTの活用方法に関してとても為になる授業だった。本人も自覚しているとおりの2ページのところをこの時間だけでこなすことは必ずどこかが内容として薄くなるということ。なぜ産業廃棄物の扱いをするのかも少し明確にする必要がある。また明確にするのであれば、どこから産業廃棄物が出されるなど20種類以上の産業廃棄物があるので、それらの説明も必要である。修学旅行の話題で一般廃棄物が先に出てきていたので産業廃棄物というよりは一般廃棄物という流れだった。もし産業廃棄物を取り上げるとするならば後から出した秋田市の産業廃棄物の話題からでよかった。授業の流れを課題として挙げる。あとは、調べ学習の時に生徒がキーワードを打つと一番最初の検索で出てくるものしか生徒は調べないので、他の生徒も同じのを見たという感じになってしまうので、キーワードとか違う場所をみるような分け方ができればと感じたので、前回取り組んだ形のようにグループで分ける形の方が良いと感じた。

調べる時間の区切れるところがあるので、そこをもっとうまく配置できると最後のまとめまで行けたと思う。グループの方が少なかったことで、偏って大きい人数だとまとめるのが大変だった。同じキーワードで調べ同じ画面を見ているのを減らすことができたと思う。前回の反省点を生かし工夫した取組が見えた。

### ③「主体的・対話的で深い学び」の授業についてフリートーク

小坂先生：「健康を考える」を達成するには、評価の場面で個人及び社会生活に関連付ける。ここが思考の場面だと思う。私であれば、家でやらせることは家でやらせれば良い。8分間の調べる機会があったのですが、あれは家での活動でも良かったのではないかなと思う。その場でできるのであれば家でもよいのではないかなと思う。前時の時間に何をやると前時の授業で次の時間の連絡がどう大事かが重要かなと思う。授業が始まったときに「今日の時間頑張ろう」と興味を引き出せば良いのではないかなと思う。何を調べてきたから始まって、何でと突っ込みを入れたり、どこから調べたとか情報操作を探っていくともうちょっと良い考えだということになるのではないかなと思う。太一先生は選択の機会を担保していると言っていたが、もちろん選択するのは大事だと思うが、グループワークをもっと稼がせるために「役割」が大事だと思う。発表は誰でも良いが、発表をするための補助は誰がするのか。あの5分間で誰がするかなど役割の設定も思考判断、対話的学びに必要なのではないかなと考える。子供たちは役割を与えていると頑張るが、逆に自分がどんな役割を果たせるのかを考えることが学校教育の目標だと私は考える。課題点が見つかったことで「私はどうする」と考えてほしい。2年生文系のクラスなのでそれを使って授業と生徒の進路を結び付けたときに、対話していくと思う。自分は今回の授業を通して学びをどのように進路に繋げていこうかなど。法律の面で考えていきたいけど健康の分野ではあるが経済的な要素もあるので経済学の分野の方向で考えてみるなど考えを広げていけることが良い。研修部の方でそういったことも含めた研修があってもよいと感じた。

範朋先生：「主体性」と「自主性」について理解した上で、「主体的に」とあげられているときはどうやって仕掛けていけばよいか考えることが重要。

風馬先生：普段気を付けていること。スライドは文字だけにせず、生徒の関心を引けるようイラストを取り入れている。あとは指示を理解することが苦手な生徒に対して、指示を複数回して定着を図るようにしている。提示していた本時の目標に答えが出ているのが気になった。修学旅行の話題での目標提示でもよかったと思う。あとはテーマが産業廃棄物なのでできれば産業工学科を利用していただきたい。例えば、工業科でものを削ってゴミを出している動画などもあるので、それを導入に活用することもできると思う。また、導入部分で生徒に問いかけしているときに30秒でも良いので考える時間を与えても良いと感じた。

長崎先生：最初はやり方をやるが、その後はまずは考えてほしい。最終的に簿記は金額が揃うという大前提がある。まずはそこまでやらせてみて、そこで失敗したら失敗したで考えさせられるので、あまり言い過ぎない、説明しすぎない、ということを中心にしている。それでできればどんどん進んでいくし、できなければ次のヒントを与えたり声掛けをしたりしている。太一先生の授業は凄く内容がてんこ盛りで最後のまとめをどうするのか気になっていた。環境への影響から健康への影響の間に太一先生が矢印を一本引いたことで、私自身は今日の内容がストンと落ち、うまさを感じた。

藤原先生：「他の授業でもこの内容をやったよね。」というのもありだと思う。  
(教科横断的)

授業者：対話する相手。自分との対話。自分の考えを深めるのも対話。  
今日のグループ共有の中では私が思っている以上に整理した会話が成っているのかなと思った。「次は誰」「私はそれを行っていない」とか。今までの授業では出てこなかった言葉だった。あの子たちなりに考えて繋げるためにそのようなやり方をしたのだろうと私なりに評価できる場面だった。評価として難しいかもしれないが、生徒の学習に向かう姿勢の変容感じたところもあった。

小坂先生：対話＝ペアワークと捉えても良いし、ペアワークで自分の考えと相手の考えを比較するのも思考だと考える。

令和7年度後期校内授業研修会

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

日 時：令和7年11月14日（金）6校時

対象クラス：鹿角高等学校1年A組音楽選択者15名

指導者：鹿角高等学校教諭 柴田 拓朗

使用教科書：ON! 1（音楽之友社）

1 題材名 歌詞の情景を思い浮かべて表現しよう

教材…「小さな空」（作詞・作曲：武満徹 編曲：伊藤康英）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説【芸術（音楽）編】内容：A表現（1）歌唱及び〔共通事項〕（1）

2 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解し、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 音楽を形づくっている要素や要素同士の間連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。

3 生徒と題材

1年生普通科の男子2名、女子13名の計15名が履修している。音楽の学習に対する関心や意欲が高い生徒が多い。年度当初に行ったボディーパーカッションの学習では、グループで積極的に表現に関する意見を交わし合いながらのびのびと表現する姿が見られた。歌唱においては、日本のポピュラー音楽や季節に合った歌い継ぎたい愛唱歌を中心に取り扱い、一人や二人で歌う活動にも積極的に取り組んできた。鑑賞ではミュージカル映画「レ・ミゼラブル」を取り扱った。演奏されている楽器の音色や音の高低、声種や歌の形態に着目しながら鑑賞することで、ストーリーの感想にとどまらず音楽的な見方・考え方を働かせて音楽を捉えている振り返りが見られた。

本題材では、「小さな空」（作詞・作曲：武満徹 編曲：伊藤康英）を取り上げる。日本語の歌曲の表現について考え、自己のイメージをもって歌唱することをねらいにする。生徒たちが想像力を働かせ、多様な表現を考える学習を通して歌唱の学習に主体的に関わる態度の育成に繋げていきたい。

4 指導と評価の計画（全4時間）

時間	学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	「小さな空」の作曲者や作曲された背景などについて学習し、1～3番の音取りをする。	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 〈学習プリント〉		「小さな空」の歌詞が表す情景に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 〈観察・歌唱テスト・学習プリント〉  ※主体的に学習に取り組む態度については、題材全体を通して評価する。
2	音楽を形づくっている要素を絞って楽曲を分析することで、1～3番の自己のイメージをもつ。		音楽を形づくっている要素や要素同士の間連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫している。 〈観察・学習プリント〉	
3 (本時)	前時にもった自己のイメージをもとに表現についてグループや全体で試行錯誤し、表現に生かす。			
4	表現を創意工夫して歌う。	創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 〈歌唱テスト〉		

## 5 本時の計画

### (1) ねらい

グループや全体での意見交換を通して、多様な表現のアイデアに触れることで自己のイメージをさらに膨らませ、歌唱表現を創意工夫する活動に取り組む。

### (2) 学習活動と評価

段階(分)	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 (5分)	・既習曲を歌う。	・発声、身体の使い方などの技能について声掛けをする。	
展開① (10分)	・少人数グループに分かれ、前時に考えた意見を交換し合う。	・活発な言語活動に繋がるよう、音楽を形づくっている要素などの音楽に関する言葉を掲示する。 ・言語活動に留まらず音によるコミュニケーションも充実するよう、歌いながら意見を交換し合うよう声掛けをする。	
展開② (30分)	・全体で各グループの意見を共有する。  ・全体で歌い試しながら、「小さな空」にふさわしい音楽表現について考える。  ・全体で歌い、「小さな空」にふさわしい音楽表現を共有する。	・多様な表現方法を学ぶことができるよう、自分たちのグループでの意見交換とどのような違いがあるか着目するよう伝える。 ・出た意見のよさに気付くことができるよう、教師が範唱をしたりホワイトボードに意見を可視化したりする。  ・表現のよさを感じることができるよう、意見発表の後その都度全員で歌う場面を設ける。  ・新たに考えたことやより具体的になったところ、考えが変わったところなどがある場合は、楽譜に加筆修正するよう伝える。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫している。  〈観察・学習プリント〉
まとめ (5分)	・本時の振り返りをする。	・前時と本時で捉え方がどのように変わったか振り返るよう声掛けをする。	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組んでいる。  〈学習プリント〉

# 令和7年度後期授業研修会 記録用紙(音楽 I 分科会)

令和7年11月14日(金)

参加者：内川 能島 木村 田畠 武石 小田島 柴田陽 藤島 小笠原 石川 小松  
(石木田) (湯澤)

テーマ：「主体的・対話的で深い学び」の授業のあり方を考える。(本時の目標設定・授業展開・振り返り・評価がどのように工夫・実践されているか。)

話し合いの流れ： ① 授業者からの授業についての説明  
② 授業についての質疑応答  
③ 「主体的・対話的で深い学び」の授業についてフリートーク  
(参加された先生方が工夫されている事等)

授業者：柴田拓朗先生

司会：田畠智香子先生

記録：小松

## 【柴田先生から】

- ・生徒観：非常に優秀で考えが深い生徒であるが、表現することが苦手な面もある。
- ・教材観：生徒たちは知らない曲で、軽く歌ってから曲の作曲者や背景に触れた。前時の授業では、曲のイメージを書き込む時間を設けた。その際は歌詞に引っ張られすぎないように、音楽表現に多く触れた例を提示した。
- ・工夫した点：生徒の意見を元に、話し合いのなかでも歌で表現するようにした。逆のことをしてみる活動を入れた。
- ・反省点：毎時間提示している「音楽の要素」を年間を通して意識させたい。時間がなくできなかったが、振り返りの時間を設けたかった。

## 【参観した先生から】

- 目標が明確
- 机間指導の時に生徒を褒めていたから発表の際に自信を持てた。
- 意見が出ないときに出るまで待つ。
- 一貫した口調が柴田先生の持つ優しい雰囲気が出ていた。
- ただ褒めるのではなく、具体的に褒める
- 授業の雰囲気が良く、環境作りがいい。
- 授業のテンポ感

- △BGMとして上手な歌を流すのは、自分で表現しようとするのを妨害しているのでは？
- △グループワークをせつかくしたから、グループごとの歌い方比較をしたら面白かった？
- △グループワークで生徒が地べたに座ってしまったが、机に座ってやるのが良かったのでは？

## 【主体的で対話的な深い学びについて】

主体的な学び：挙手の意義(回数で評価するとかになるとそれが目的になってしまう)  
当てることを予告することで多少は発表してくれる。

対話的な学び：題材選び、人数設定が重要

Q主体的で対話的な深い学びを実現するために、クラスによって生徒観が異なるが、クラスに合わせて授業を変えていいのか。(柴田先生)

Aそれぞれのクラスに合わせて授業の進め方は変えていくしかない。(参観した先生方)